

2018 巻き興せ！ワクワクのムーブメント
～日に新たな挑戦で次代に先駆ける～

第8回市民意識調査アンケート 集計・分析・考察結果報告

60周年準備委員会

集計・分析・考察結果報告

調査目的

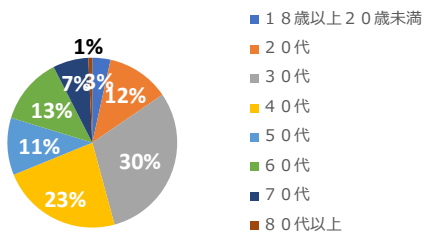
- 八戸市民がアンケートを行うところにより、現状のまちに対して考え、新たな気づきの機会につなげる。
- 八戸市民の意識を調査し、まちづくり運動の方向性を考察し、新たな未来ビジョンを模索する材料へつなげる。

調査概要

- ①調査方法：八戸市民と対面しアンケートへ回答していただく。（紙媒体及び電子媒体）
- ②調査場所：館鼻岸壁朝市・はちのへホコテン・わんぱく相撲緑化まつり・はちのへ公園春まつり・歯っぴー八戸
- ③調査対象：満18歳以上の八戸市民
- ④調査期間：平成30年2月6日～平成30年6月24日
- ⑤回答数：1218標本（有効回答数1184標本）

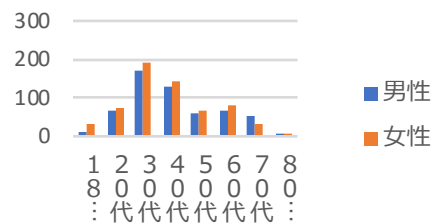
回答者属性

年代別数



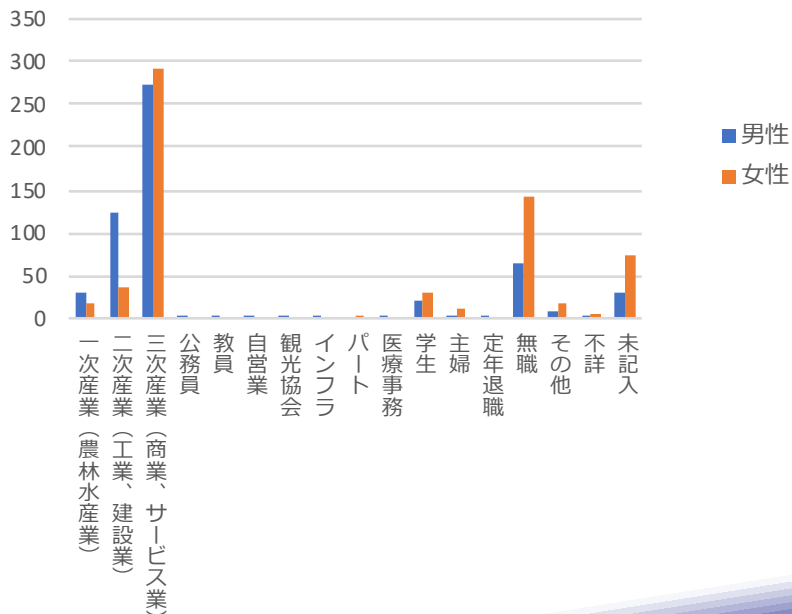
年齢	件数
18歳以上20歳未満	41
20代	142
30代	359
40代	273
50代	129
60代	151
70代	80
80代以上	9
合計	1184

年代別男女数



年齢	男性	女性
18歳以上20歳未満	10	31
20代	66	76
30代	168	191
40代	131	142
50代	59	70
60代	70	81
70代	51	29
80代以上	3	6
総計	558	626

職業別男女数

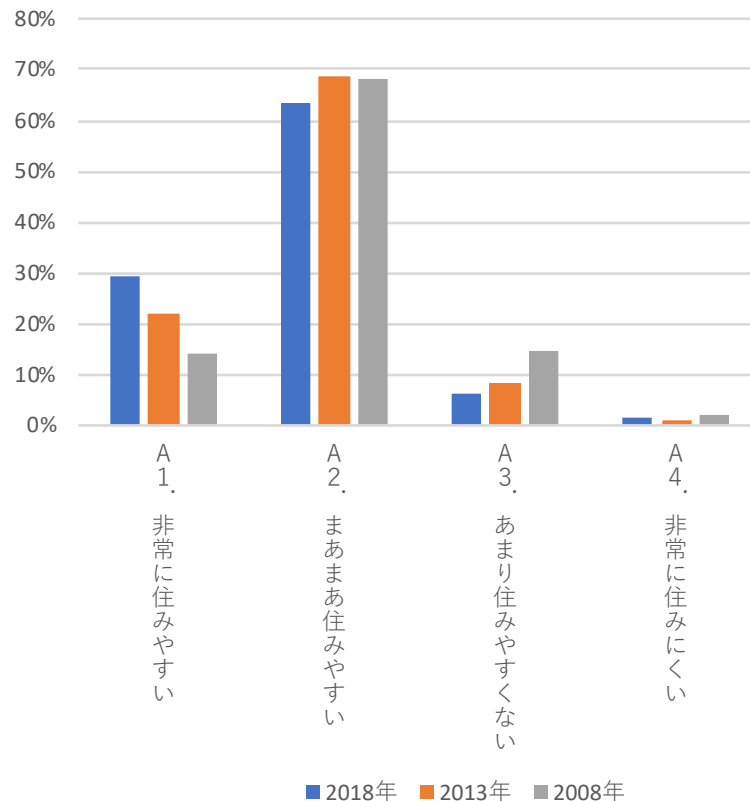


職業	男性	女性
一次産業（農林水産業）	31	16
二次産業（工業、建設業）	123	35
三次産業（商業、サービス業）	272	293
公務員	1	
教員	1	
自営業	1	
観光協会	1	
インフラ	1	
パート		1
医療事務	1	
学生	20	31
主婦	2	12
定年退職	1	
無職	65	143
その他	7	17
不詳	1	4
未記入	30	74
総計	558	626

八戸市の全体イメージについて

Q 1 八戸はあなたにとって住みよいところですか？

性別／年代	A 1. 非常に住みやすい	A 2. まあまあ住みやすい	A 3. あまり住みやすい	A 4. 非常に住みにくい	総計
男性	15.8%	27.5%	3.0%	0.8%	47.1%
18歳以上20歳未満	0.5%	0.3%	0.0%	0.0%	0.8%
20代	1.4%	3.5%	0.6%	0.0%	5.6%
30代	3.5%	9.5%	1.0%	0.2%	14.2%
40代	4.6%	5.8%	0.4%	0.3%	11.1%
50代	1.5%	3.0%	0.3%	0.2%	5.0%
60代	1.9%	3.2%	0.6%	0.2%	5.9%
70代	2.2%	2.0%	0.1%	0.0%	4.3%
80代以上	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.3%
女性	13.5%	35.7%	3.0%	0.6%	52.9%
18歳以上20歳未満	1.3%	1.3%	0.1%	0.0%	2.6%
20代	1.9%	4.1%	0.4%	0.1%	6.4%
30代	3.1%	11.6%	1.4%	0.1%	16.1%
40代	3.1%	8.1%	0.8%	0.0%	12.0%
50代	1.3%	4.4%	0.1%	0.2%	5.9%
60代	1.4%	5.0%	0.3%	0.2%	6.8%
70代	1.4%	0.9%	0.0%	0.1%	2.4%
80代以上	0.1%	0.4%	0.0%	0.0%	0.5%
2018年	29.3%	63.3%	6.1%	1.4%	100.0%
2013年	21.9%	68.7%	8.1%	1.0%	99.7%
2008年	14.1%	68.0%	14.9%	1.9%	98.9%



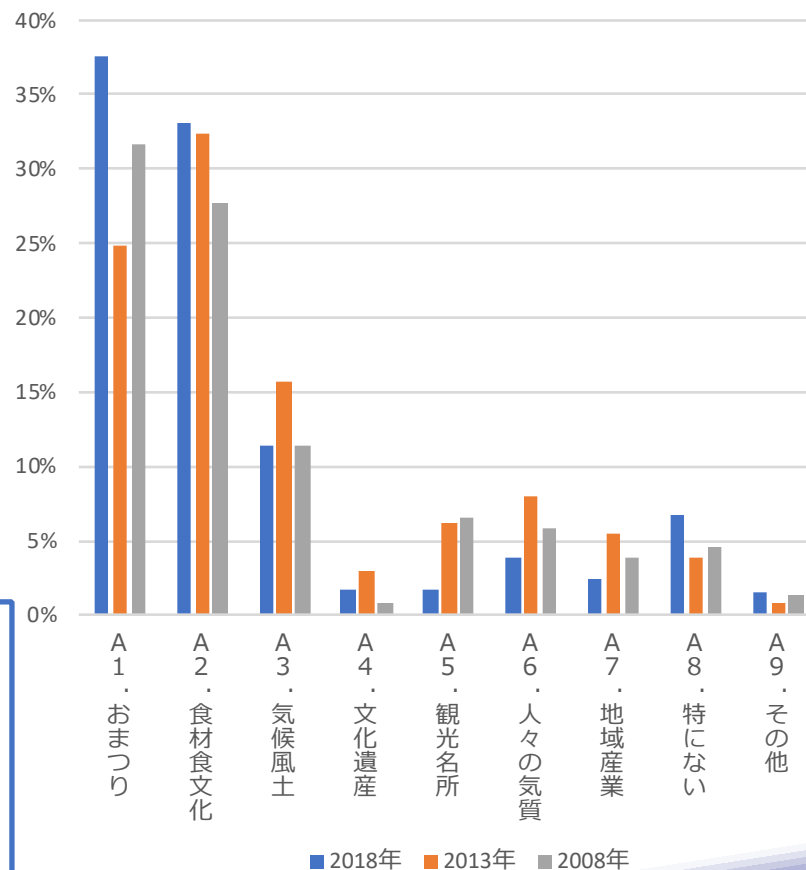
分析・考察結果

10年前と比較して「非常に住みやすい」と回答された方が15.2%増加した一方で、「あまり住みやすい」と回答された方は8.8%減少しており、これは道路建設や公共設備の改善などのインフラ整備が進み、郊外の商業施設も進出したことが要因の1つであると思われる。

八戸市の全体イメージについて

Q2 あなたが思う八戸の魅力は何ですか？

性別/年代	A1. おまつり	A2. 食材食文化	A3. 気候風土	A4. 文化遺産	A5. 観光名所	A6. 人々の 気質	A7. 地域産 業	A8. 特にな い	A9. その他	総計
男性	14.7%	17.5%	5.8%	0.6%	0.6%	2.0%	1.4%	3.6%	0.8%	47.1%
18歳以上20歳未満	0.3%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
20代	1.4%	2.1%	0.5%	0.1%	0.0%	0.3%	0.3%	0.7%	0.2%	5.6%
30代	5.0%	6.1%	1.2%	0.0%	0.1%	0.6%	0.3%	0.6%	0.3%	14.2%
40代	3.2%	4.6%	1.4%	0.1%	0.2%	0.5%	0.3%	0.8%	0.1%	11.1%
50代	1.5%	1.9%	0.6%	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	0.3%	0.0%	5.0%
60代	1.9%	2.0%	0.6%	0.2%	0.1%	0.0%	0.2%	0.8%	0.3%	5.9%
70代	1.4%	0.4%	1.4%	0.0%	0.1%	0.3%	0.3%	0.4%	0.0%	4.2%
80代以上	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
女性	22.9%	15.7%	5.6%	1.0%	1.0%	1.9%	1.0%	3.2%	0.6%	52.9%
18歳以上20歳未満	1.7%	0.4%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	2.6%
20代	2.9%	1.4%	0.7%	0.1%	0.1%	0.6%	0.0%	0.6%	0.1%	6.4%
30代	8.5%	4.7%	0.7%	0.1%	0.3%	0.3%	0.3%	1.1%	0.2%	16.2%
40代	5.2%	3.4%	1.8%	0.3%	0.2%	0.3%	0.3%	0.7%	0.1%	12.0%
50代	1.4%	2.5%	0.7%	0.3%	0.1%	0.3%	0.1%	0.6%	0.0%	5.9%
60代	2.4%	2.5%	1.0%	0.1%	0.3%	0.3%	0.3%	0.1%	0.1%	6.9%
70代	0.8%	0.7%	0.3%	0.3%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	2.4%
80代以上	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.5%
2018年	37.6%	33.2%	11.4%	1.6%	1.6%	3.9%	2.5%	6.8%	1.4%	100.0%
2013年	24.8%	32.3%	15.6%	3.0%	6.2%	8.0%	5.4%	3.9%	0.8%	100.0%
2008年	31.6%	27.8%	11.4%	0.7%	6.5%	5.9%	3.8%	4.5%	1.4%	100.0%



分析・考察結果

10年前と比較して「おまつり」と回答された方が12.5%増加しており、えんぶりや七夕まつりもさることながら、八戸三社大祭がユネスコ無形文化遺産に登録されたことが市民の意識に反映されたものと思われる。

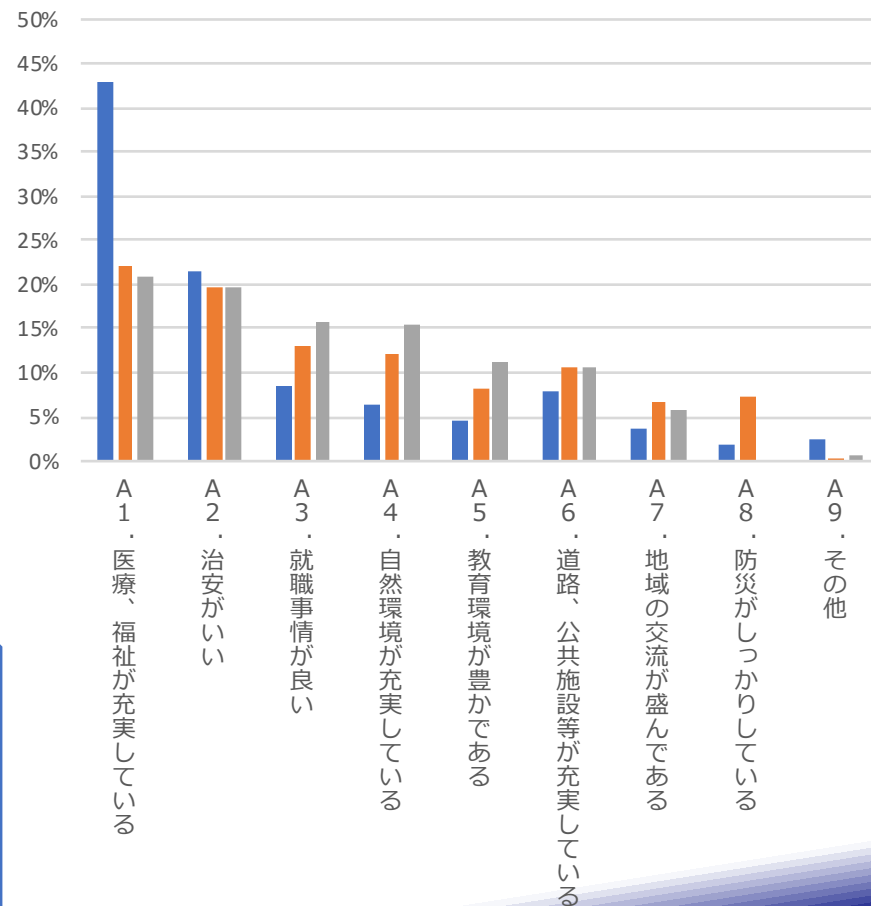
そして、「食材食文化」と回答された方が5.2%増加しているのは地域活性化を目的とする町おこしのためのイベントで、全国各地のご当地グルメを通じた祭典B-1グランプリにおいて2013年に八戸せんべい汁がグランプリを受賞したことや、近年では八戸前沖さばブランドなどが全国で取り上げられたことが影響しているものと思われる。

一方で、「文化遺産」「観光名所」が軒並み5%程度減少しており外から見れば魅力的な資源であっても、市民にとっては当たり前の存在になりつつある傾向と思われる。

八戸市の全体イメージについて

Q3 あなたが安心して生活するために求める社会は何ですか？

性別／年代	A1. 医療、福祉が充実している	A2. 治安がいい	A3. 就職事情が良い	A4. 自然環境が充実している	A5. 教育環境が豊かである	A6. 道路、公共施設等が充実している	A7. 地域の交流が盛んである	A8. 防災がしっかりしている	A9. その他	総計
男性	17.5%	10.0%	4.9%	3.5%	2.3%	4.4%	2.5%	0.6%	1.6%	47.2%
18歳以上20歳未満	0.2%	0.3%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.8%
20代	0.8%	1.0%	1.3%	0.6%	0.5%	0.8%	0.3%	0.1%	0.2%	5.6%
30代	4.5%	3.7%	1.4%	0.9%	1.0%	1.4%	0.8%	0.2%	0.4%	14.2%
40代	5.2%	2.2%	1.1%	0.3%	0.4%	1.3%	0.4%	0.0%	0.1%	11.1%
50代	1.8%	0.8%	0.6%	0.7%	0.2%	0.2%	0.4%	0.0%	0.4%	5.0%
60代	2.9%	1.2%	0.3%	0.3%	0.1%	0.6%	0.3%	0.1%	0.2%	5.9%
70代	2.0%	0.8%	0.3%	0.4%	0.0%	0.2%	0.1%	0.3%	0.3%	4.3%
80代以上	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
女性	25.5%	11.5%	3.6%	2.8%	2.3%	3.6%	1.4%	1.2%	0.9%	52.8%
18歳以上20歳未満	0.5%	1.4%	0.2%	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%
20代	2.0%	1.9%	0.6%	0.6%	0.1%	0.8%	0.2%	0.1%	0.2%	6.4%
30代	8.0%	3.0%	1.1%	0.7%	1.3%	0.8%	0.3%	0.4%	0.4%	16.1%
40代	6.4%	1.8%	0.8%	0.8%	0.6%	1.0%	0.2%	0.3%	0.1%	12.0%
50代	2.9%	1.4%	0.8%	0.1%	0.3%	0.1%	0.2%	0.2%	0.0%	5.9%
60代	3.9%	1.5%	0.1%	0.3%	0.0%	0.3%	0.5%	0.1%	0.1%	6.9%
70代	1.5%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.2%	2.4%
80代以上	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.5%
2018年	43.1%	21.5%	8.5%	6.3%	4.6%	8.0%	3.8%	1.8%	2.5%	100.0%
2013年	22.2%	19.7%	13.1%	12.0%	8.1%	10.6%	6.7%	7.4%	0.2%	100.0%
2008年	20.9%	19.6%	15.8%	15.5%	11.1%	10.6%	5.7%	0.0%	0.8%	100.0%



分析・考察結果

10年前と比較して「医療・福祉が充実している」と回答された方が22.1%大幅に増加している。これは地方都市の八戸市において高齢者人口の増加とともに、要介護者を支えてきた家族をめぐる状況は深刻さを増しており、今後一層の介護福祉施設における機能の充実とサービスの向上が求められ、介護福祉施設の現場においては人手不足が深刻な問題となっていることが要因の1つと思われる。

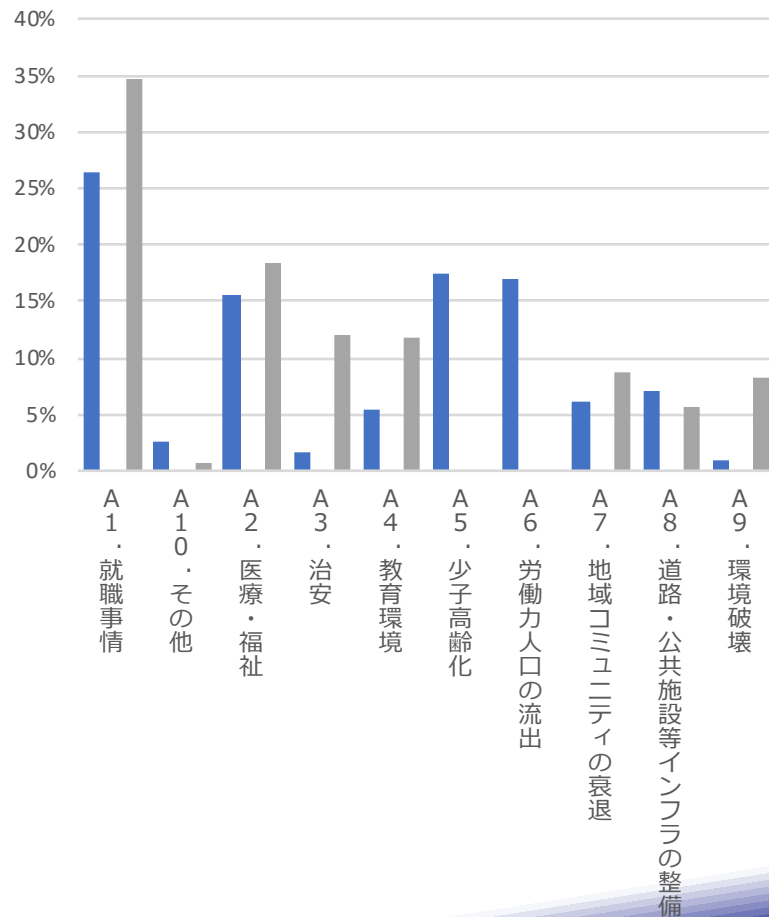
一方で、「就職事情が良い」と回答された方が7.3%減少しているのは団塊の世代が定年退職する近年において、各企業も人材確保のために動き出し有効求人倍率も上昇傾向にあることが要因の1つと思われる。

■ 2018年 ■ 2013年 ■ 2008年

八戸市の全体イメージについて

Q4 あなたが考える八戸市の問題点は何ですか？

性別／年代	A 1. 就職事情	A 2. 医療・福祉	A 3. 治安	A 4. 教育環境	A 5. 少子高齢化	A 6. 労働力人口の流出	A 7. 地域コミュニティの衰退	A 8. 道路・公共施設等インフラの整備	A 9. 環境破壊	A 10. その他	総計
男性	11.2%	5.4%	0.7%	2.9%	8.5%	10.3%	3.1%	3.6%	0.3%	1.2%	47.2%
18歳以上20歳未満	0.2%	0.3%	0.0%	0.1%	0.2%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.8%
20代	1.6%	0.4%	0.2%	0.3%	0.9%	0.9%	0.3%	0.8%	0.1%	0.2%	5.6%
30代	3.9%	1.1%	0.2%	0.8%	2.5%	3.3%	1.2%	0.8%	0.1%	0.3%	14.2%
40代	2.9%	1.5%	0.3%	1.1%	1.6%	2.7%	0.8%	0.3%	0.0%	0.0%	11.1%
50代	1.1%	0.5%	0.1%	0.3%	0.7%	1.3%	0.3%	0.4%	0.1%	0.3%	5.0%
60代	1.0%	0.9%	0.0%	0.3%	1.4%	1.3%	0.3%	0.5%	0.1%	0.2%	5.9%
70代	0.5%	0.6%	0.0%	0.1%	1.1%	0.8%	0.3%	0.8%	0.0%	0.2%	4.3%
80代以上	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%
女性	15.2%	10.2%	1.0%	2.5%	8.9%	6.7%	3.0%	3.5%	0.5%	1.4%	52.8%
18歳以上20歳未満	0.5%	0.4%	0.3%	0.0%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.2%	0.0%	2.6%
20代	1.4%	0.8%	0.3%	0.3%	1.0%	1.5%	0.3%	0.7%	0.1%	0.2%	6.3%
30代	4.3%	4.1%	0.3%	0.9%	2.5%	1.8%	0.5%	0.8%	0.0%	0.8%	16.2%
40代	3.7%	2.1%	0.1%	0.8%	1.9%	1.4%	0.6%	1.0%	0.1%	0.3%	12.0%
50代	2.5%	0.9%	0.0%	0.3%	0.7%	0.8%	0.3%	0.3%	0.0%	0.2%	5.9%
60代	2.2%	1.1%	0.0%	0.1%	1.6%	0.5%	0.8%	0.3%	0.1%	0.1%	6.9%
70代	0.5%	0.6%	0.0%	0.1%	0.7%	0.2%	0.3%	0.0%	0.1%	0.0%	2.4%
80代以上	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
2018年総計	26.4%	2.6%	15.6%	1.7%	5.3%	17.3%	17.0%	6.1%	7.1%	0.8%	100.0%
2013年総計	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2008年総計	34.6%	0.7%	18.5%	11.9%	11.8%	0.0%	0.0%	8.6%	5.7%	8.2%	100.0%



分析・考察結果

10年前と比較して「労働力人口の流出」「地域コミュニティの衰退」が軒並み9%程度増加している。これは我が国では、世界に先駆けて人口減少・超高齢化社会に突入しており、地方と東京圏の経済格差拡大の影響等により、若い世代の地方からの流出と東京圏への一極集中が続き、地方における社会経済の活力低下が危惧されていることが要因の1つと思われる。

また人口減少が進展することにより、労働力人口の減少や消費の縮小など地域産業への影響や、地域の安全・安心を守る地域コミュニティの担い手の減少など、地域の社会経済の多くの側面への影響が考えられ、東京圏への人口流出に拍車がかかるなどの悪循環が懸念される。

■ 2018年総計 ■ 2013年総計 ■ 2008年総計

八戸市の全体イメージについてのまとめ

これら4つの質問から、八戸市は非常に及びまあまあ住みやすいと思う方が90%以上にのぼる。10年前と比較してこの変化は様々な要因が考えられるが、平成29年1月に基礎自治体の事務権限の拡充をし、より多くの行政サービスを担うことにより市民福祉の一層の向上を図ることや、東北屈指の都市として存在感を高め八戸圏域における中心都市として広域行政の一層の充実を図ることを目的に、中核市へ移行したことが1つ挙げられると思われる。

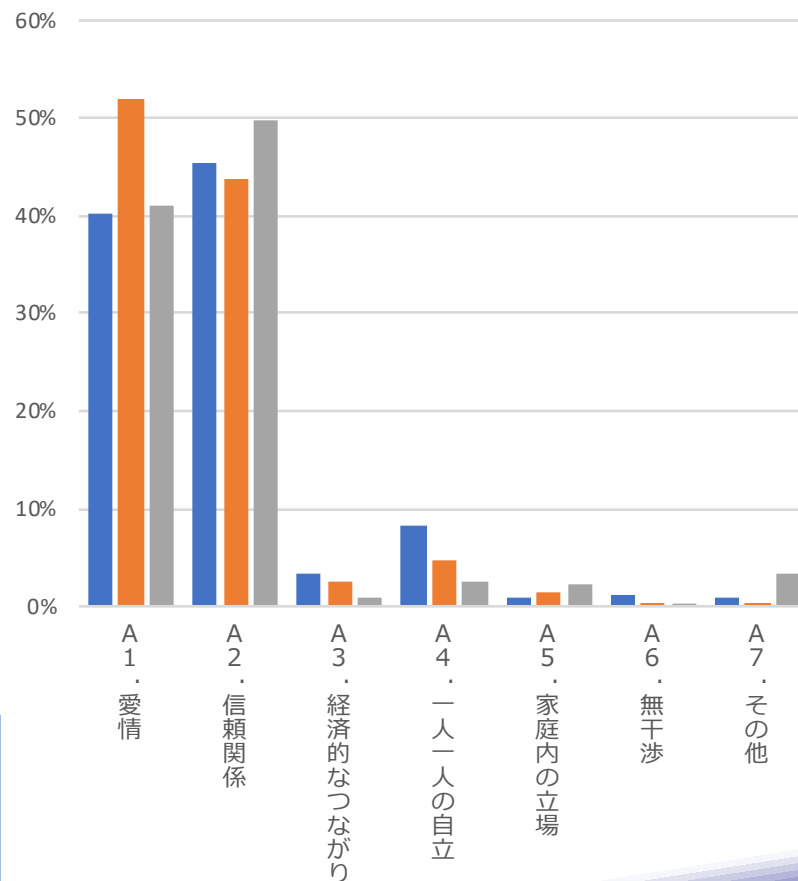
また、市民の意識として八戸三社大祭やえんぶり、七夕まつりを代表とするおまつり行事や八戸市の食材・食文化に魅力を感じている一方で、文化遺産・観光名所を魅力に感じている市民は少なく、地域に名所旧跡や特産物があっても観光資源としての魅力や集客力に欠けていたり、多くの観光資源があるものの、それらを観光客の興味をひく形にして十分に発信しきれていないことが要因の1つと思われる。

そして、安心して生活するためには医療・福祉の充実を求めている方が多いが、それを八戸市の問題点として捉えている市民は少なく、逆に安心して生活するために就職事情が良いことを求めている方は少ないが八戸市の問題点として捉えている市民は多い。これは青森県内の求人倍率が上がっているといえど、都市圏と地元との就職事情の隔たりが未だあることが要因の1つと思われる。よって、労働力人口の流出や地域コミュニティの衰退を懸念し問題視する声が上がったと思われる。

家族愛について

Q 5 あなたは家族の関係の中で何が一番重要だと考えますか？

性別／年代	A 1. 愛情	A 2. 信頼関係	A 3. 経済的 なつながり	A 4. 一人一人の自立	A 5. 家庭内の立場	A 6. 無干渉	A 7. その他	総計
男性	18.5%	21.1%	1.8%	4.1%	0.4%	0.6%	0.6%	47.1%
18歳以上20歳未満	0.6%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
20代	1.9%	2.5%	0.4%	0.6%	0.0%	0.2%	0.0%	5.6%
30代	6.3%	6.0%	0.3%	1.1%	0.1%	0.1%	0.3%	14.2%
40代	4.8%	4.7%	0.3%	0.7%	0.2%	0.3%	0.2%	11.1%
50代	2.1%	2.4%	0.0%	0.3%	0.0%	0.1%	0.1%	5.0%
60代	1.6%	3.2%	0.3%	0.8%	0.0%	0.0%	0.1%	5.9%
70代	1.1%	2.0%	0.5%	0.5%	0.1%	0.0%	0.0%	4.2%
80代以上	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.3%
女性	21.6%	24.2%	1.5%	4.2%	0.4%	0.6%	0.3%	52.9%
18歳以上20歳未満	1.3%	0.9%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%	2.6%
20代	2.9%	2.8%	0.1%	0.5%	0.1%	0.0%	0.1%	6.4%
30代	6.8%	7.7%	0.3%	0.8%	0.3%	0.3%	0.0%	16.1%
40代	5.0%	6.0%	0.3%	0.6%	0.0%	0.1%	0.0%	12.0%
50代	2.2%	2.5%	0.1%	0.9%	0.0%	0.0%	0.3%	5.9%
60代	2.0%	3.7%	0.3%	0.7%	0.0%	0.1%	0.0%	6.8%
70代	1.2%	0.5%	0.3%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%
80代以上	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
2018年	40.2%	45.3%	3.3%	8.3%	0.8%	1.2%	0.9%	100.0%
2013年	51.9%	43.7%	2.6%	4.8%	1.3%	0.3%	0.3%	100.0%
2008年	40.9%	49.9%	1.0%	2.5%	2.2%	0.1%	3.4%	100.0%



分析・考察結果

10年前と比較して「一人一人の自立」と回答された方が5.8%増加しており、これは少子化、核家族化、情報化、国際化など我が国経済社会の急激な変化を受けて、人々の価値観や生活様式が多様化している一方で、社会の傾向としては人間関係の希薄化、地域における地縁的なつながりの希薄化、過度に経済性や効率性を重視する傾向、女性の社会進出が一般的になったことが要因の1つと思われる。

■ 2018年 ■ 2013年 ■ 2008年

家族愛についてのまとめ

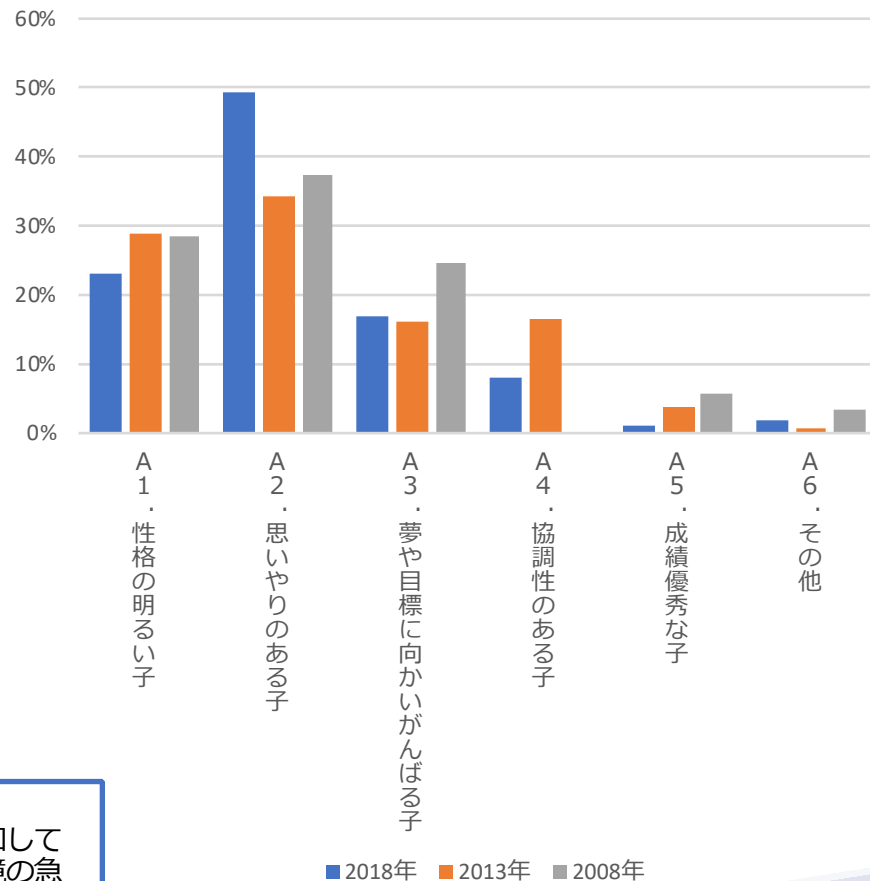
我が国の経済社会全体の情勢をとらえてみれば、農耕社会から工業社会へ、そして現在は情報社会へと大きな構造変化の渦中にある。このような社会構造の変化に伴い、現在、共働き世帯が就業世帯の半数を超え、両親が家庭にいる時間が少なくなり、また地域社会の連帯感も希薄になっている。

このような背景を踏まえた上で、家族の愛情や信頼関係は大前提として前述したとおり一人一人の自立が重要視されている傾向にある。我が国は今、女性の活躍推進を掲げ結婚や出産をしても働き続けることを後押しする社会を目指している。こうした人々の意識や社会の変化により、子育てをしながら共働きをする人々が増えればその夫婦のあり方にも変化が求められる。これまでの男女の役割が固定化された夫婦関係から、家事や子育て等においても経済的にも自立した夫婦関係へと変わっていく必要があると思われる。

青少年を取り巻く環境について

Q 6 自分の子供はどのように育てて欲しいですか？

性別／年代	A 1. 性格の 明るい 子	A 2. 思いや りのあ る子	A 3. 夢や目 標に向 かいが んばる 子	A 4. 協調性 のある 子	A 5. 成績優 秀な子	A 6. その他	総計
男性	11.1%	22.2%	7.8%	4.1%	0.8%	1.4%	47.3%
18歳以上20歳未満	0.4%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.8%
20代	1.0%	2.0%	1.4%	0.9%	0.2%	0.1%	5.6%
30代	3.5%	6.7%	2.5%	0.9%	0.2%	0.4%	14.3%
40代	2.0%	6.5%	1.4%	0.8%	0.2%	0.3%	11.1%
50代	1.5%	2.0%	0.7%	0.4%	0.1%	0.2%	4.9%
60代	1.4%	2.6%	1.1%	0.4%	0.1%	0.3%	5.9%
70代	1.2%	1.9%	0.6%	0.5%	0.1%	0.1%	4.3%
80代以上	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
女性	12.0%	27.1%	9.1%	3.8%	0.2%	0.6%	52.7%
18歳以上20歳未満	0.8%	0.9%	0.3%	0.4%	0.0%	0.2%	2.6%
20代	1.5%	3.6%	0.8%	0.4%	0.0%	0.0%	6.4%
30代	4.7%	7.8%	2.6%	0.8%	0.1%	0.1%	16.1%
40代	1.9%	6.5%	2.4%	1.0%	0.0%	0.3%	12.0%
50代	1.2%	2.8%	1.4%	0.3%	0.1%	0.1%	5.9%
60代	1.3%	3.8%	1.1%	0.6%	0.0%	0.0%	6.8%
70代	0.4%	1.4%	0.4%	0.2%	0.0%	0.0%	2.5%
80代以上	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
2018年	23.1%	49.2%	16.9%	7.9%	0.9%	2.0%	100.0%
2013年	28.9%	34.1%	16.2%	16.5%	3.7%	0.7%	100.0%
2008年	28.5%	37.3%	24.8%	0.0%	5.9%	3.5%	100.0%



分析・考察結果

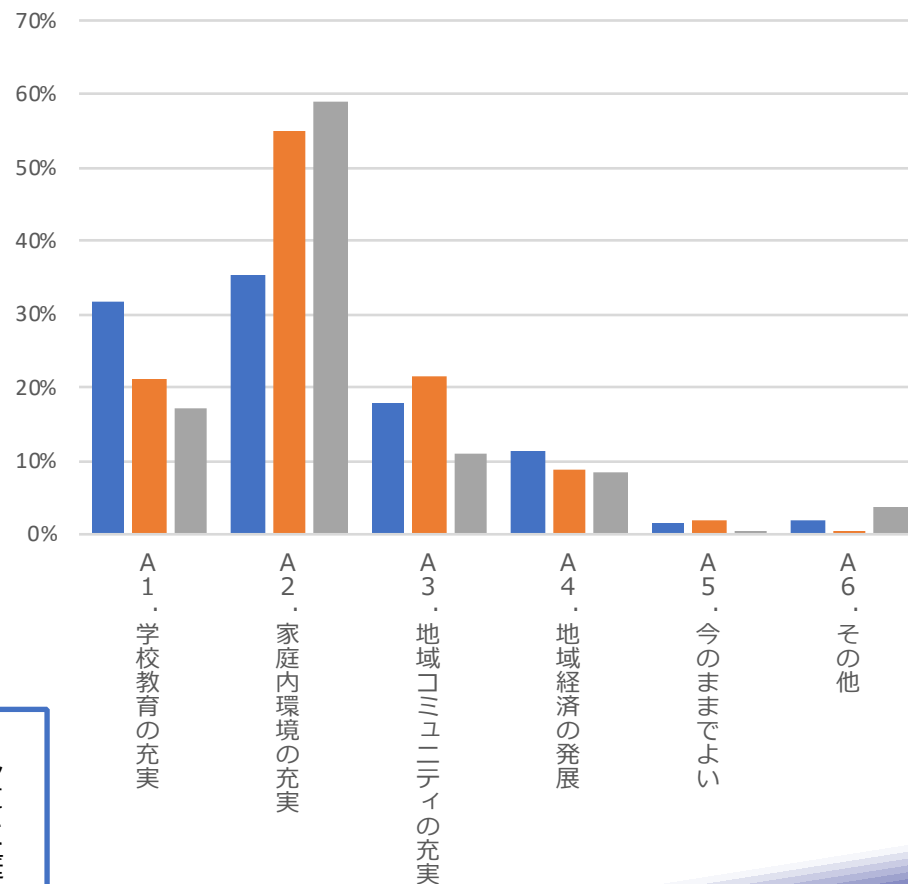
10年前と比較して「思いやりのある子」と回答された方が12%増加しており、これは今日の少子高齢化や核家族化、情報化の進展など、社会環境の急速な変化は物質的な豊かさと相まって、価値観の多様化や人間関係の希薄化をもたらしている。子どもたちの意識や行動もその影響を受け、生命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識などが十分に育っていないことがよく指摘される。

このような現状を踏まえると、豊かな心を育てる道徳教育の役割がますます重要になってくることが要因の1つと思われる。

青少年を取り巻く環境について

Q 7 子どもたちが育つために必要な環境には何が一番必要だと考えますか？

性別／年代	A 1. 学校教育の充実	A 2. 家庭内環境の充実	A 3. 地域コミュニティの充実	A 4. 地域経済の発展	A 5. 今のままでよい	A 6. その他	総計
男性	14.1%	16.7%	8.1%	6.4%	0.9%	0.9%	47.1%
18歳以上20歳未満	0.3%	0.3%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
20代	1.7%	2.1%	0.8%	0.5%	0.2%	0.3%	5.5%
30代	3.9%	5.1%	2.6%	2.2%	0.3%	0.2%	14.3%
40代	3.5%	3.9%	2.0%	1.4%	0.3%	0.1%	11.1%
50代	1.4%	1.4%	0.9%	1.1%	0.0%	0.3%	4.9%
60代	2.0%	2.0%	1.1%	0.6%	0.2%	0.1%	6.0%
70代	1.3%	1.7%	0.6%	0.5%	0.1%	0.1%	4.3%
80代以上	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
女性	17.6%	18.8%	9.9%	4.9%	0.6%	1.1%	52.9%
18歳以上20歳未満	0.8%	1.5%	0.1%	0.3%	0.0%	0.0%	2.6%
20代	1.9%	3.1%	0.9%	0.3%	0.1%	0.2%	6.4%
30代	6.2%	4.6%	3.7%	1.3%	0.0%	0.3%	16.2%
40代	3.4%	4.2%	2.6%	1.2%	0.3%	0.3%	12.0%
50代	2.0%	2.0%	0.8%	0.8%	0.2%	0.2%	5.9%
60代	2.4%	2.3%	1.4%	0.7%	0.0%	0.1%	6.8%
70代	0.9%	0.9%	0.3%	0.3%	0.1%	0.0%	2.5%
80代以上	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.5%
2018年	31.7%	35.5%	18.0%	11.2%	1.5%	2.0%	100.0%
2013年	21.1%	55.0%	21.7%	8.9%	1.8%	0.5%	100.0%
2008年	17.2%	59.0%	11.0%	8.5%	0.4%	3.9%	100.0%



分析・考察結果

10年前と比較して「学校教育の充実」が14.5%と大幅に増加しており、これは現在共働き世帯が就業世帯の半数を超え、両親が家庭にいる時間が少なくなり、また地域社会の連帯感も希薄になっている。このように、子どもの育ちをめぐる環境が著しく変化している中で、家庭や地域社会における教育力が十分にあることを前提に構築されている幼稚園等施設における教育も含め、教育機関全体の在り方を根本から見直すことが必要になっていることが要因の1つと思われる。

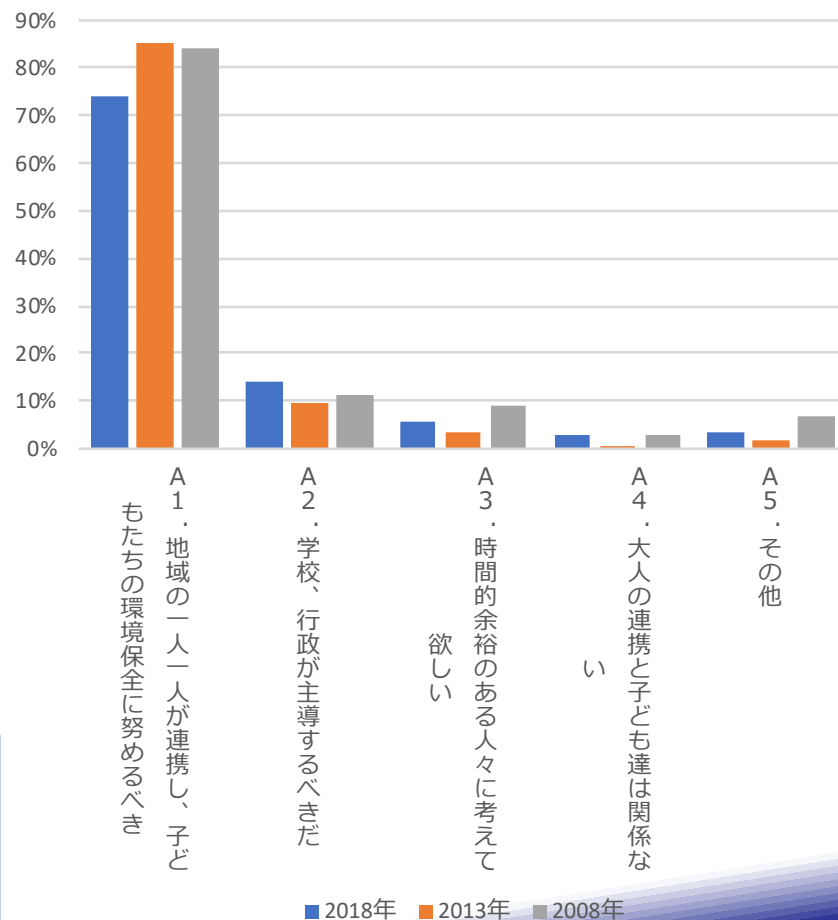
一方で、「家庭内環境の充実」と回答された方は23.5%も大幅に減少しており、前述した時代背景を踏まえた結果といえると思われる。

■ 2018年 ■ 2013年 ■ 2008年

青少年を取り巻く環境について

Q 8 子どもを育てるために必要な、地域のコミュニティについてどのように考えますか？

性別／年代	A 1. 地域の一人一人が連携し、子どもたちの環境保全に努めるべき	A 2. 学校、行政が主導するべきだ	A 3. 時間的余裕のある人々に考えて欲しい	A 4. 大人の連携と子ども達は関係ない	A 5. その他	総計
男性	33.3%	7.2%	2.8%	2.0%	1.8%	47.2%
18歳以上20歳未満	0.5%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.9%
20代	3.2%	1.4%	0.3%	0.5%	0.3%	5.6%
30代	10.5%	2.0%	1.1%	0.3%	0.3%	14.3%
40代	7.9%	1.5%	0.6%	0.5%	0.5%	11.1%
50代	3.7%	0.7%	0.3%	0.1%	0.2%	4.9%
60代	4.7%	0.8%	0.2%	0.2%	0.2%	6.0%
70代	2.6%	0.6%	0.2%	0.4%	0.3%	4.2%
80代以上	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.3%
女性	40.8%	7.0%	2.6%	0.7%	1.7%	52.8%
18歳以上20歳未満	1.5%	0.9%	0.2%	0.0%	0.0%	2.6%
20代	4.2%	1.1%	0.8%	0.2%	0.1%	6.3%
30代	14.1%	1.4%	0.3%	0.0%	0.5%	16.2%
40代	8.3%	2.0%	0.8%	0.4%	0.4%	12.0%
50代	4.2%	0.9%	0.5%	0.0%	0.3%	6.0%
60代	6.0%	0.4%	0.2%	0.1%	0.2%	6.8%
70代	2.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	2.4%
80代以上	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.5%
2018年	74.1%	14.2%	5.5%	2.7%	3.5%	100.0%
2013年	85.1%	9.8%	3.6%	0.4%	1.6%	100.0%
2008年	83.9%	11.2%	9.1%	2.8%	7.0%	100.0%



分析・考察結果

10年間と比較して「学校・行政が主導するべきだ」の回答が3%増加しており、前問の回答結果が反映されているものと思われる。

一方で、「地域の一人一人が連携し、子どもたちの環境保全に努めるべき」と回答された方が9.8%減少しているものの全体で70%以上にのぼる。家庭や地域社会が、自らその教育力を再生、向上していく取組をすることを求められているのが要因の1つと思われる。

青少年を取り巻く環境についてのまとめ

近年の子どもの育ちについては、基本的な生活習慣や態度が身に付いていない、他者とのかかわりが苦手である、自制心や耐性、規範意識が十分に育っていない、運動能力が低下しているなどの課題が指摘されている。

また、小学校1年生などの教室において、学習に集中できない、教員の話が聞けずに授業が成立しないなど学級がうまく機能しない状況が見られる。加えて、近年の子どもたちは、多くの情報に囲まれた環境にいるため世の中についての知識は増えているものの、その知識は断片的で受け身的なものが多く、学びに対する意欲や関心が低いとの指摘がある。

少子化、核家族化、情報化など我が国経済社会の急激な変化を受けて、人々の価値観や生活様式が多様化している一方で、社会の傾向としては共働き世帯の増加、人間関係の希薄化、地域における地縁的なつながりの希薄化が見られるとの指摘がある。

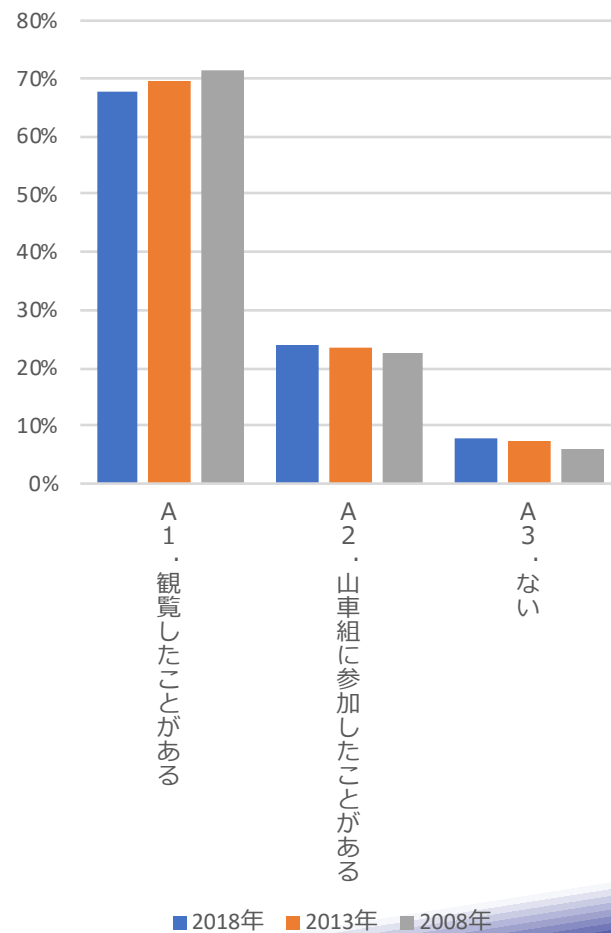
このような社会状況が、地域社会などにおける子どもの育ちをめぐる環境や家庭における親の子育て環境を変化させている。さらには、このような変化に伴い、教育機関の教員等にも新たな課題が生じている。

そして、それらのことが複合的に絡み合っ、子どもの育ちに影響を及ぼしている要因になっているものと考えられる。

おまつりについて

Q9 あなたは八戸三社大祭を観覧、参加した事がありますか？

性別／年代	A 1. 観覧したことがある	A 2. 山車組に参加したことがある	A 3. ない	総計
男性	30.8%	12.3%	4.1%	47.2%
18歳以上20歳未満	0.7%	0.2%	0.0%	0.9%
20代	3.4%	1.6%	0.5%	5.5%
30代	9.5%	4.1%	0.7%	14.3%
40代	7.8%	2.8%	0.4%	11.1%
50代	3.1%	1.1%	0.7%	4.9%
60代	3.7%	1.5%	0.7%	6.0%
70代	2.3%	1.0%	1.0%	4.3%
80代以上	0.2%	0.0%	0.1%	0.3%
女性	37.2%	11.8%	3.8%	52.8%
18歳以上20歳未満	1.9%	0.5%	0.3%	2.6%
20代	4.3%	1.5%	0.6%	6.4%
30代	11.7%	3.6%	0.9%	16.2%
40代	8.1%	3.0%	0.9%	12.0%
50代	3.8%	2.0%	0.2%	6.0%
60代	5.4%	1.0%	0.3%	6.8%
70代	1.4%	0.3%	0.7%	2.4%
80代以上	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%
2018年	67.9%	24.1%	7.9%	100.0%
2013年	69.7%	23.4%	7.4%	100.0%
2008年	71.3%	22.8%	5.9%	100.0%



分析・考察結果

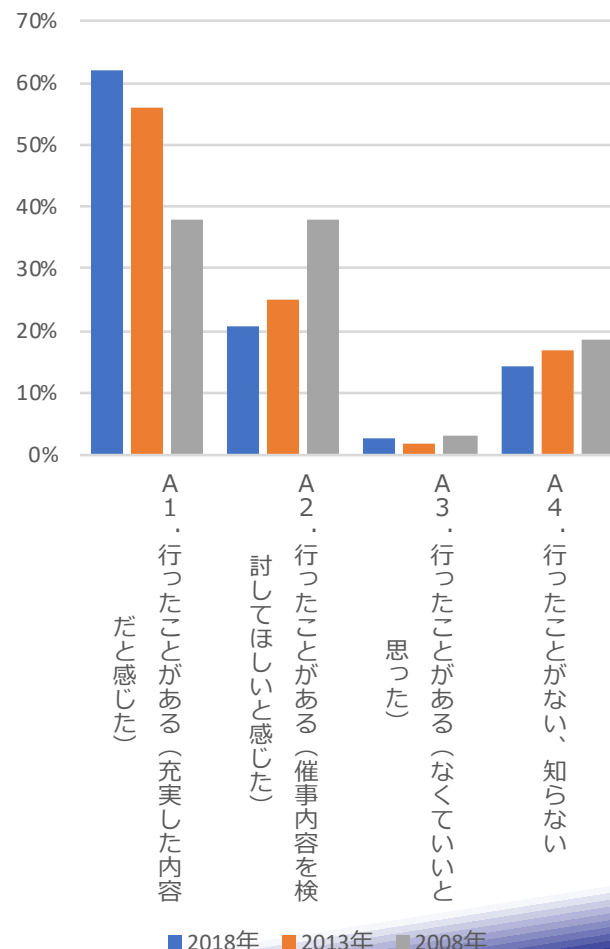
10年前、5年前と比較して「観覧したことがある」は僅かながら3.4%減少している。逆に「山車組に参加したことがある」は1.4%微増している。

また、どちらも「ない」は2.4%微増しており全体的な数値の割合はほぼ横ばい傾向といえるが、「山車組に参加したことがある」方が年々増えているのはインターネットやSNS等の告知媒体の充実により、参加の窓口が広がったことが要因の1つと思われる。

おまつりについて

Q 1 0市庁前広場で開催されている「おまつり広場」に行ったことがありますか？

性別／年代	A 1. 行ったことがある（充実した内容だと感じた）	A 2. 行ったことがある（催事内容を検討してほしいと感じた）	A 3. 行ったことがある（なくていいと思った）	A 4. 行ったことがない、知らない	総計
男性	26.4%	11.4%	1.9%	7.5%	47.2%
18歳以上20歳未満	0.4%	0.3%	0.0%	0.2%	0.9%
20代	2.7%	0.9%	0.3%	1.7%	5.6%
30代	8.4%	3.1%	0.5%	2.4%	14.3%
40代	6.6%	2.8%	0.4%	1.1%	10.9%
50代	2.4%	1.8%	0.1%	0.6%	4.9%
60代	3.9%	1.2%	0.1%	0.8%	6.0%
70代	1.9%	1.5%	0.4%	0.6%	4.4%
80代以上	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.3%
女性	35.8%	9.3%	1.0%	6.7%	52.8%
18歳以上20歳未満	1.2%	0.5%	0.2%	0.8%	2.6%
20代	3.9%	1.5%	0.3%	0.8%	6.4%
30代	11.9%	2.3%	0.0%	2.0%	16.1%
40代	8.0%	2.6%	0.2%	1.3%	12.0%
50代	4.0%	0.8%	0.3%	0.8%	5.9%
60代	4.8%	1.3%	0.0%	0.7%	6.7%
70代	1.7%	0.4%	0.0%	0.3%	2.5%
80代以上	0.3%	0.0%	0.1%	0.2%	0.5%
2018年	62.1%	20.7%	2.9%	14.2%	100.0%
2013年	56.0%	25.1%	1.9%	16.8%	100.0%
2008年	37.9%	37.9%	3.2%	18.8%	100.0%



分析・考察結果

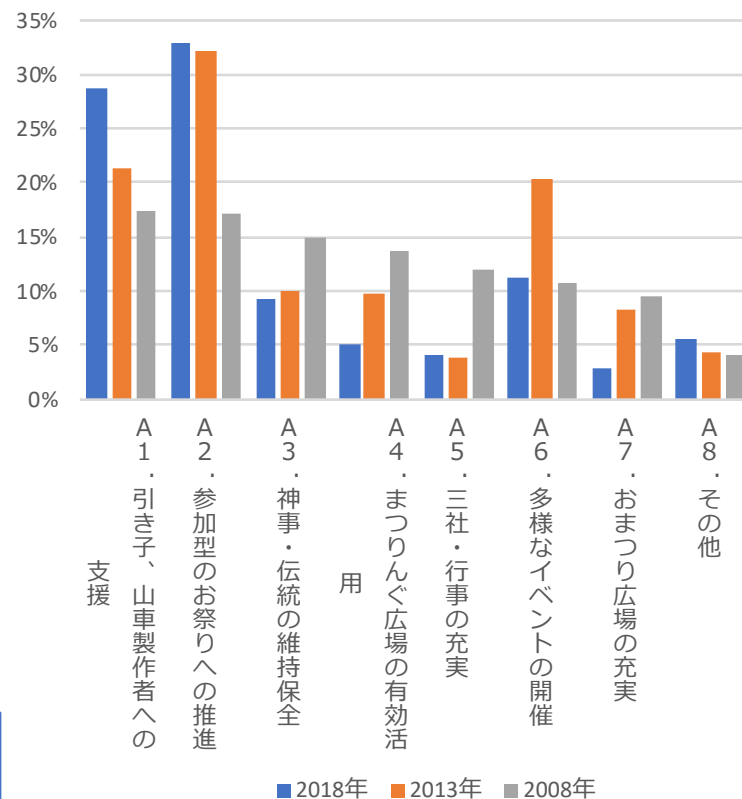
10年前、5年前と比較して「行ったことがある（充実した内容だと感じた）」の回答は24.2%大幅に増加しており、「行ったことがある（催事内容を検討してほしいと感じた）」は17.2%減少、「行ったことがある（なくていいと思った）」も僅かながら0.3%減少していることから、近年の創意工夫を凝らしたおまつり広場の内容が市民のニーズに合致してきていると思われる。

また、「行ったことがない、知らない」は4.5%減少していることから新聞やポスターに加え、インターネットやSNS等のツールが普及し市民への認知度が向上したと思われる。ただし、今回のアンケート結果でも20.7%の方がおまつり広場の催事内容を検討してほしいと感じており、今後も子どもから年配の方まで幅広い世代が楽しめる内容を模索し続けることが大切であると思われる。

おまつりについて

Q 1 1 あなたが三社大祭に一番必要だと感じているのは何ですか？

性別／年代	A 1. 引き子・山車製作者への支援	A 2. 参加型のお祭りへの推進	A 3. 神事・伝統の維持保全	A 4. まつりめぐ広場の有効活用	A 5. 三社・行事の充実	A 6. 多様なイベントの開催	A 7. おまつり広場の充実	A 8. その他	総計
男性	11.5%	15.6%	4.9%	2.5%	1.9%	6.0%	1.8%	3.1%	47.2%
18歳以上20歳未満	0.3%	0.4%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
20代	1.1%	1.5%	0.6%	0.3%	0.3%	0.9%	0.3%	0.5%	5.5%
30代	3.3%	4.9%	1.1%	1.0%	0.7%	2.4%	0.1%	0.9%	14.3%
40代	3.2%	3.9%	1.6%	0.1%	0.0%	1.1%	0.4%	0.8%	11.1%
50代	1.2%	1.4%	0.5%	0.0%	0.4%	0.7%	0.3%	0.3%	4.9%
60代	1.2%	1.9%	0.6%	0.6%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	6.0%
70代	1.2%	1.6%	0.3%	0.3%	0.1%	0.4%	0.3%	0.2%	4.3%
80代以上	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%
女性	17.2%	17.3%	4.3%	2.7%	2.2%	5.4%	1.2%	2.5%	52.8%
18歳以上20歳未満	0.7%	1.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.1%	2.6%
20代	1.6%	2.0%	0.3%	0.9%	0.4%	0.9%	0.1%	0.2%	6.3%
30代	4.9%	5.4%	0.9%	0.9%	0.8%	2.0%	0.5%	0.9%	16.2%
40代	3.9%	3.9%	1.2%	0.6%	0.4%	1.1%	0.3%	0.6%	12.0%
50代	2.0%	1.4%	1.4%	0.1%	0.3%	0.3%	0.3%	0.2%	6.0%
60代	2.6%	2.7%	0.2%	0.1%	0.2%	0.5%	0.1%	0.3%	6.7%
70代	1.3%	0.5%	0.3%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	2.5%
80代以上	0.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
2018年	28.7%	32.9%	9.3%	5.2%	4.1%	11.3%	3.0%	5.6%	100.0%
2013年	21.4%	32.2%	10.0%	9.8%	3.8%	20.3%	8.4%	4.3%	100.0%
2008年	17.5%	17.2%	15.0%	13.8%	12.1%	10.8%	9.5%	4.1%	100.0%



分析・考察結果

10年前と比較して「引き子・山車製作者への支援」が10.2%増加しており、5年前からも上昇傾向にある。これは、昨今ニュースや新聞等で山車製作の後継者不足や少子高齢化による引き子の参加減少が取り沙汰されており、それを知った市民や実際に参加している方の声が反映されたのではなにかと思われる。「参加型のおまつりへの推進」も同様に15.7%増加しており上昇傾向をたどっている。このことは、様々な告知媒体による参加の窓口が広がっているが、参加希望する市民への告知が浸透しているとはいえず認知不足が要因の1つと思われる。

おまつりについてのまとめ

これら3つの質問から、八戸三社大祭を観覧したことがある人と山車組に参加したことがある人を含めると90%以上の方が何らかの形で接触を持っていることが分かり、八戸を代表するお祭りといえる。

おまつり広場に関しては、アンケート結果からも年々市民の関心度は高まってきていると考えられ、今後は行ったことがあるが催事内容に満足されていない方及び未だに行ったことがない方の要因を模索することが大切であると思われる。また、八戸三社大祭に必要なものとして引き子・山車製作者への支援、参加型のお祭りへの推進が多数を占めている。これについては少子高齢化や山車製作者の勤務する事業所の休暇の問題、また山車の製作場所では、町内または町内に隣接した場所を確保できないことや、町内と山車組間のコミュニケーションの希薄化が八戸市議会でも取り上げられており、この現状が結果にも反映されたものと思われる。

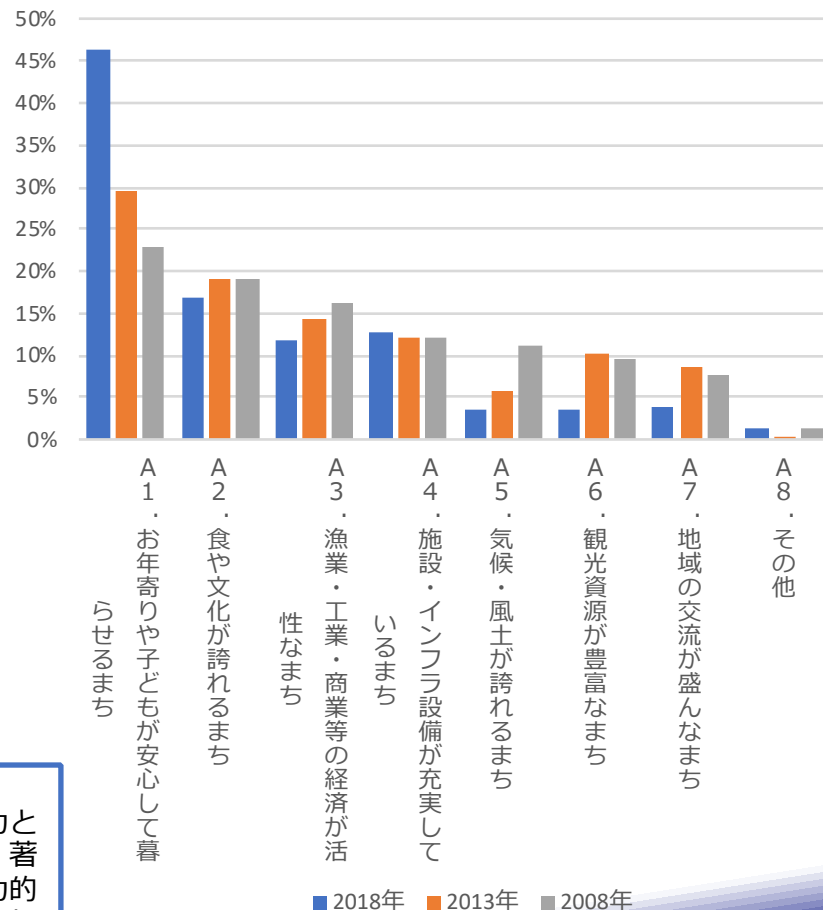
平成28年12月1日に八戸三社大祭はユネスコ無形文化遺産に登録された。その背景には地域が幾世にもわたり保護継承してきたことや、準備や練習を通じて世代間の交流を促し、地域の結束力を高める役割を果たしてきたことなど国際的に評価されたことが理由に挙げられる。引き子・山車製作者への支援及び参加型のおまつりへの推進は必要不可欠な課題として今後も取り組まなくてはならない。

地域愛について

Q 1 2 あなたが住んでみたい、魅力があると感じるまちはどのようなまちですか？

A 1. お年寄りや文化が安心して暮らせるまち
 A 2. 食や文化が誇れるまち
 A 3. 漁業・商業等の経済が活性的なまち
 A 4. 施設・インフラ設備が充実したまち
 A 5. 気候・風土が誇れるまち
 A 6. 観光資源が豊富なまち
 A 7. 地域の交流が盛んなまち
 A 8. その他
 総計

性別／年代	A 1.	A 2.	A 3.	A 4.	A 5.	A 6.	A 7.	A 8.	総計
男性	16.9%	10.0%	6.5%	7.1%	2.1%	1.8%	2.0%	0.6%	47.2%
18歳以上20歳未満	0.2%	0.4%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
20代	0.8%	1.3%	0.8%	1.9%	0.3%	0.4%	0.1%	0.0%	5.6%
30代	4.9%	2.6%	2.0%	2.6%	0.3%	0.6%	0.8%	0.3%	14.2%
40代	3.8%	2.7%	1.7%	1.4%	0.6%	0.3%	0.5%	0.0%	11.1%
50代	2.0%	1.4%	0.3%	0.6%	0.1%	0.3%	0.2%	0.1%	4.9%
60代	3.2%	1.1%	0.6%	0.3%	0.3%	0.1%	0.3%	0.1%	5.9%
70代	1.8%	0.4%	1.0%	0.2%	0.5%	0.1%	0.2%	0.1%	4.2%
80代以上	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%
女性	29.6%	6.7%	5.4%	5.5%	1.4%	1.7%	1.9%	0.8%	52.8%
18歳以上20歳未満	1.3%	0.6%	0.3%	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	2.6%
20代	2.5%	1.0%	0.7%	1.1%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	6.4%
30代	9.4%	2.2%	1.4%	1.5%	0.4%	0.6%	0.4%	0.2%	16.1%
40代	7.3%	1.3%	1.1%	1.5%	0.2%	0.3%	0.3%	0.0%	12.0%
50代	3.2%	0.8%	0.6%	0.3%	0.2%	0.3%	0.6%	0.0%	5.9%
60代	3.9%	0.7%	0.8%	0.8%	0.3%	0.2%	0.1%	0.1%	6.8%
70代	1.5%	0.2%	0.4%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	2.5%
80代以上	0.3%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.5%
2018年	46.5%	16.7%	11.9%	12.7%	3.5%	3.5%	3.9%	1.4%	100.0%
2013年	29.5%	19.1%	14.4%	12.1%	5.8%	10.3%	8.6%	0.2%	100.0%
2008年	23.0%	19.2%	16.1%	12.1%	11.1%	9.6%	7.8%	1.2%	100.0%



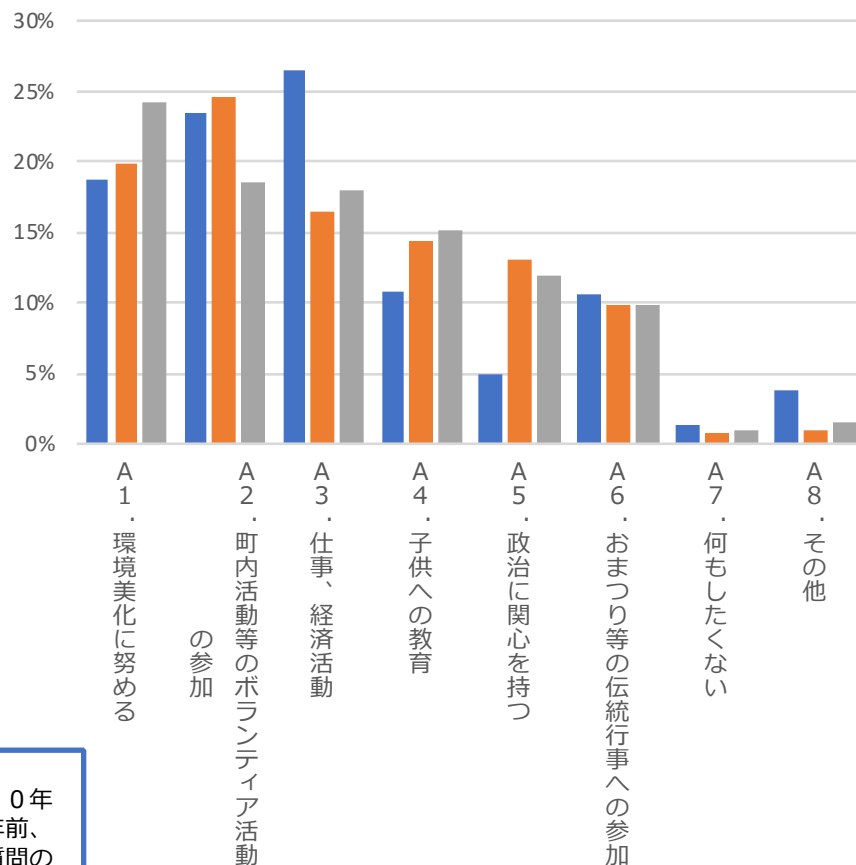
分析・考察結果

10年前、5年前と比較して「お年寄りや子供が安心して暮らせる街」が魅力と考えている方が年々増えている。特に5年前と比較して17%も増加しており、著しい増加となっている。逆に5年前と比較し、「観光資源が豊富なまち」が魅力的であると考えている方は6.8%、「地域の交流の盛んなまち」は4.7%減少し、「気候・風土が誇れるまち」はだんだん減少し10年前と比較すると7.6%も減少している。以上のことから、市民が考える魅力的な街とは、今住んでいる人たちが快適に生活できるまちにすることであると考える方が増加していると思われる。

地域愛について

Q 1 3 八戸市を魅力あるまちにするためにあなたに出来る事は何かと思いますか？

性別／年代	A 1. 環境美化に努める	A 2. 町内活動等のボランティア活動の参加	A 3. 仕事、経済活動	A 4. 子供への教育	A 5. 政治に関心をもち持つ	A 6. おまつり等の伝統行事への参加	A 7. 何もしたくない	A 8. その他	総計
男性	7.8%	11.6%	14.1%	4.7%	2.3%	4.4%	0.4%	1.8%	47.2%
18歳以上20歳未満	0.3%	0.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.9%
20代	0.8%	0.9%	2.0%	0.5%	0.2%	1.0%	0.1%	0.2%	5.6%
30代	1.8%	3.1%	5.2%	1.9%	0.4%	1.3%	0.2%	0.3%	14.1%
40代	1.6%	3.0%	3.9%	1.0%	0.3%	0.9%	0.0%	0.3%	11.1%
50代	0.9%	1.2%	1.3%	0.5%	0.2%	0.4%	0.0%	0.4%	4.9%
60代	1.4%	2.0%	0.8%	0.5%	0.6%	0.4%	0.2%	0.1%	6.0%
70代	0.9%	1.2%	0.7%	0.3%	0.6%	0.3%	0.0%	0.4%	4.3%
80代以上	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%
女性	10.9%	11.8%	12.3%	6.0%	2.6%	6.2%	0.9%	2.0%	52.8%
18歳以上20歳未満	0.7%	0.8%	0.5%	0.0%	0.1%	0.5%	0.0%	0.1%	2.6%
20代	0.8%	1.4%	1.7%	0.3%	0.5%	1.4%	0.1%	0.3%	6.4%
30代	2.9%	2.6%	3.4%	3.3%	0.9%	2.1%	0.3%	0.6%	16.2%
40代	2.5%	2.1%	3.4%	1.5%	0.3%	1.6%	0.3%	0.2%	11.9%
50代	1.3%	1.3%	1.8%	0.3%	0.3%	0.4%	0.1%	0.6%	6.0%
60代	2.0%	2.6%	1.0%	0.4%	0.5%	0.2%	0.0%	0.1%	6.8%
70代	0.8%	0.9%	0.5%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	2.5%
80代以上	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.5%
2018年	18.7%	23.5%	26.4%	10.7%	4.9%	10.6%	1.4%	3.7%	100.0%
2013年	19.9%	24.5%	16.5%	14.3%	13.1%	9.9%	0.8%	1.0%	100.0%
2008年	24.2%	18.5%	17.9%	15.1%	12.0%	9.8%	0.9%	1.5%	100.0%



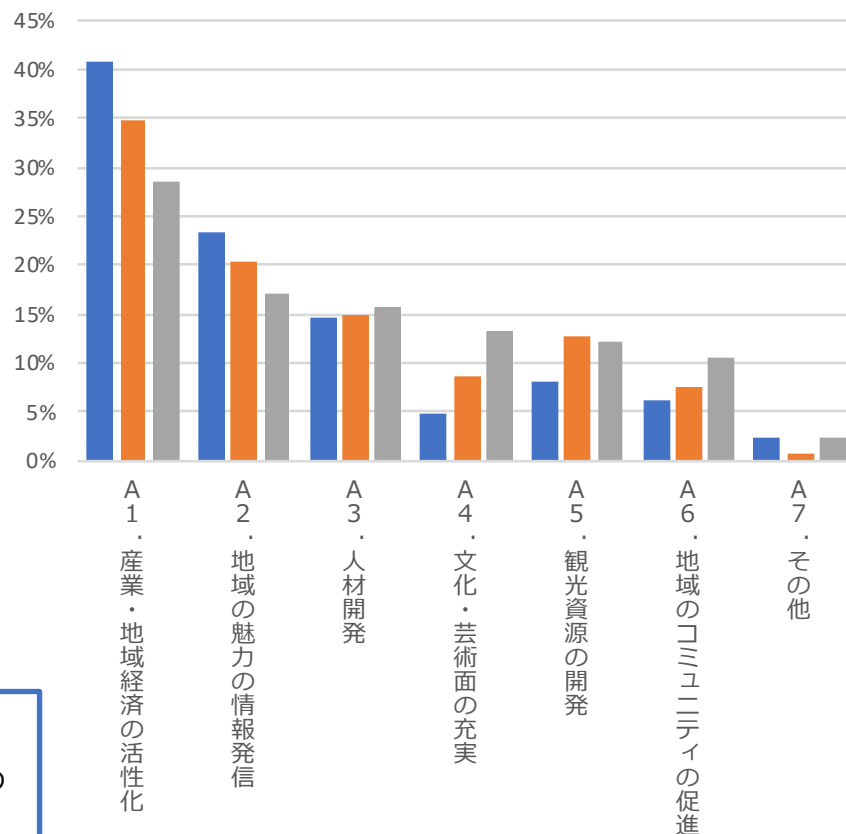
分析・考察結果

魅力的な街にするために必要なことは「環境美化に努める」ことが段々減少しており、10年前と比較すると5.5%減少している。また「政治に関心をもち持つ」ことについては、10年前、5年前はあまり変わらなかったが、今回は5年前と比較し8.2%も減少しており、当該質問の中では著しい減少といえる。また「子供への教育」もだんだん減少している。逆に今回の調査で、「仕事、経済活動」が必要だとする回答が増え5年前と比較し、9.9%も増加し、著しい増加となった。以上から10年前、5年前と比較し「政治への関心」が薄れ、「仕事や経済活動」が重要だと考えている方が増えていると思われる。ただ、政治への関心について、2008年は政権交代の機運が高まった年で、翌2009年には自民党から民主党に政権交代した。同様に2013年は前年年末に政権が再び自民党に戻った直後でどちらも政治への関心が高まった年であるため、今年よりも政治的関心が高かったことも要因であると思われる。

地域愛について

Q 1 4 八戸市が力を入れていくべきことは何だと思えますか？

性別／年代	A 1. 産業・ 地域経 済の活 性化	A 2. 地域の 魅力の 情報発 信	A 3. 人材開 発	A 4. 文化・ 芸術面 の充実	A 5. 観光資 源の開 発	A 6. 地域の コミュ ニティ の促進	A 7. その他	総計
男性	19.1%	10.1%	7.6%	2.4%	3.9%	3.0%	1.3%	47.4%
18歳以上20歳未満	0.4%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.9%
20代	1.9%	1.3%	0.9%	0.5%	1.0%	0.1%	0.0%	5.6%
30代	5.8%	2.4%	2.4%	0.7%	1.2%	1.4%	0.3%	14.2%
40代	4.9%	2.3%	1.7%	0.4%	0.6%	0.7%	0.5%	11.2%
50代	1.9%	1.2%	0.8%	0.3%	0.5%	0.2%	0.2%	4.9%
60代	2.4%	1.7%	1.1%	0.3%	0.1%	0.3%	0.1%	6.0%
70代	1.6%	1.1%	0.6%	0.3%	0.4%	0.2%	0.2%	4.3%
80代以上	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.3%
女性	21.7%	13.1%	7.0%	2.5%	4.1%	3.2%	1.1%	52.6%
18歳以上20歳未満	0.9%	0.9%	0.2%	0.2%	0.1%	0.3%	0.0%	2.6%
20代	2.0%	1.4%	1.3%	0.3%	0.9%	0.3%	0.1%	6.4%
30代	6.9%	3.9%	2.3%	0.3%	1.1%	1.0%	0.5%	16.1%
40代	5.5%	2.9%	1.4%	0.3%	1.0%	0.7%	0.2%	11.9%
50代	2.0%	1.8%	0.7%	0.9%	0.3%	0.3%	0.1%	6.0%
60代	3.2%	1.5%	0.7%	0.3%	0.4%	0.3%	0.2%	6.6%
70代	1.1%	0.6%	0.3%	0.0%	0.2%	0.2%	0.1%	2.5%
80代以上	0.2%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.5%
2018年	40.8%	23.3%	14.6%	4.9%	8.0%	6.1%	2.4%	100.0%
2013年	34.7%	20.5%	15.0%	8.8%	12.8%	7.5%	0.7%	100.0%
2008年	28.5%	17.1%	15.8%	13.2%	12.2%	10.6%	2.5%	100.0%



分析・考察結果

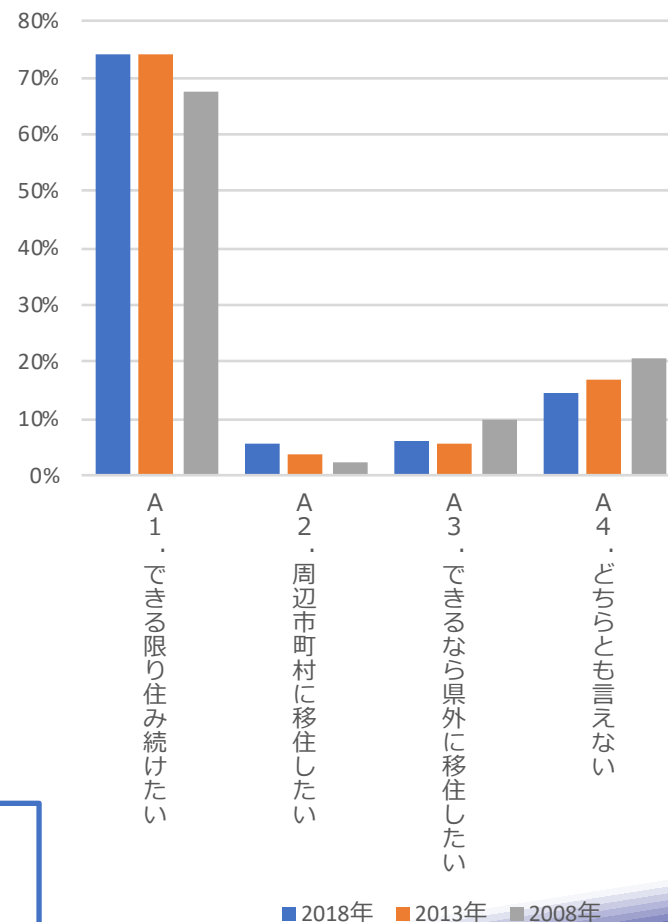
八戸が力を入れていくべきことについては、「産業・地域経済の活性化」が段々増加し、10年前と比較すると、12.3%も増加し、今回の調査では4割の方が重要だと考えている。また地域の魅力の情報発信も段々増加し、10年前と比較すると6.2%増加している。逆に、「文化芸術面の充実」、「観光資源の開発」、「地域のコミュニティの促進」については段々減少している。以上から、経済活動について重要視している方が増えており、観光資源や芸術面については、充実していると実感した方が増えたので、重要視する方が減少し、逆に八戸の魅力をうまく外部に伝達できていないと感じる方が増えたので、地域の魅力の情報発信を重要視する方が増えたと思われる。

■ 2018年 ■ 2013年 ■ 2008年

地域愛について

Q15 あなたは今後も八戸市に住み続けたいですか？

性別／年代	A1. できる限り 住み続け たい	A2. 周 辺市町村 に移住し たい	A3. できるなら 県外に移 住したい	A4. ど ちらとも 言えない	総計
男性	35.7%	2.4%	2.5%	6.6%	47.2%
18歳以上20歳未満	0.3%	0.3%	0.1%	0.3%	0.9%
20代	2.8%	0.5%	0.9%	1.4%	5.6%
30代	10.8%	0.3%	0.5%	2.6%	14.1%
40代	8.9%	0.6%	0.5%	1.2%	11.2%
50代	3.8%	0.2%	0.3%	0.7%	4.9%
60代	5.0%	0.3%	0.3%	0.3%	5.9%
70代	3.8%	0.3%	0.0%	0.2%	4.3%
80代以上	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
女性	38.3%	3.2%	3.4%	7.8%	52.8%
18歳以上20歳未満	1.5%	0.4%	0.1%	0.5%	2.6%
20代	4.0%	0.7%	0.7%	1.0%	6.4%
30代	11.8%	0.7%	1.4%	2.3%	16.1%
40代	8.6%	0.4%	0.9%	2.1%	12.0%
50代	4.2%	0.3%	0.2%	1.3%	6.0%
60代	5.6%	0.4%	0.3%	0.5%	6.8%
70代	2.2%	0.2%	0.0%	0.1%	2.5%
80代以上	0.4%	0.1%	0.0%	0.0%	0.5%
2018年	74.0%	5.6%	5.9%	14.5%	100.0%
2013年	74.2%	3.5%	5.6%	16.8%	100.0%
2008年	67.6%	2.2%	9.7%	20.4%	100.0%



分析・考察結果

今後も八戸に住み続けたいかどうかでは、「できる限り住み続けたい」と考えている方が、5年前と比べてほとんど変わらなかったが、70%以上の方が八戸に住み続けたいと考えており、県外や周辺市町村に移住したいと考えている方が合わせても10%程度に止まっていることから、八戸のことが好きな市民が多いことが伺える。そのような中で、5年前と比較して県外移住を希望する方は増えていないのに、「周辺市町村に移住したい」と考えている方が2.1%増加していることから、周辺市町村の街づくりについての取り組みが魅力的であると考えている方が着実に増えていると思われる。

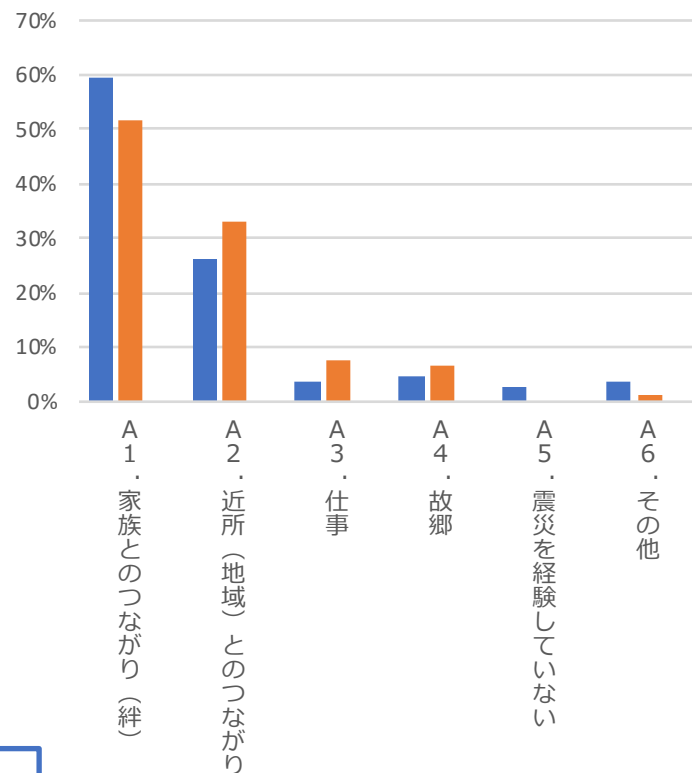
地域愛についてのまとめ

これら4つの質問から、多くの方がお年寄りと子供が安心して暮らせるまちを望んでいる反面、子供の教育について重要視する方が減少してきている。これは、社会全体で少子化が叫ばれ、八戸市においても子供が楽しめる施設やイベント、子供に対する教育環境が充実してきたからであると思われる。よって今後、子供はもちろんだが、お年寄りが安心して安心して暮らせる環境に力を入れて欲しいと考えている方が増えていると思われる。また八戸に住み続けたいと考える方が多く、情報発信が必要だと考えている方が増えていることから、八戸は魅力的な街で、もっと八戸の魅力を外に発信することが必要であると考えている方が多いと思われる。それは観光資源の開発を重要視する方が減っており、八戸は観光資源が充実してきていると考えているが増えていると考えられることから伺える。以上から、八戸を魅力的な街だと考える市民が多く、八戸の魅力を発信することで、経済の活性化に繋がると考えている方が多いように思われる。

震災について

Q 1 6 震災を経験して感じたあなたにとって大切なものは何ですか？

性別／年代	A 1. 家族とのつながり (絆)	A 2. 近所 (地域) とのつながり	A 3. 仕事	A 4. 故郷	A 5. 震災を経験していない	A 6. その他	総計
男性	24.6%	13.7%	2.5%	2.8%	1.3%	2.4%	47.2%
18歳以上20歳未満	0.3%	0.5%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.8%
20代	2.7%	1.4%	0.3%	0.4%	0.4%	0.4%	5.6%
30代	7.5%	3.7%	0.8%	0.8%	0.4%	1.0%	14.2%
40代	6.5%	2.8%	0.7%	0.6%	0.1%	0.4%	11.1%
50代	3.0%	1.2%	0.2%	0.3%	0.1%	0.3%	4.9%
60代	2.9%	2.0%	0.5%	0.3%	0.3%	0.0%	5.9%
70代	1.7%	2.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.2%	4.3%
80代以上	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%
女性	34.9%	12.6%	1.0%	1.7%	1.4%	1.2%	52.8%
18歳以上20歳未満	1.7%	0.6%	0.1%	0.2%	0.1%	0.0%	2.6%
20代	3.8%	1.2%	0.2%	0.8%	0.2%	0.3%	6.4%
30代	11.1%	3.3%	0.3%	0.4%	0.6%	0.3%	16.1%
40代	7.5%	3.6%	0.2%	0.2%	0.3%	0.2%	12.0%
50代	4.0%	1.5%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	5.9%
60代	4.7%	1.6%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	6.8%
70代	1.7%	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	2.5%
80代以上	0.3%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
2018年	59.5%	26.3%	3.5%	4.5%	2.6%	3.6%	100.0%
2013年	51.8%	32.9%	7.5%	6.7%	0.0%	1.1%	100.0%
2008年	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%



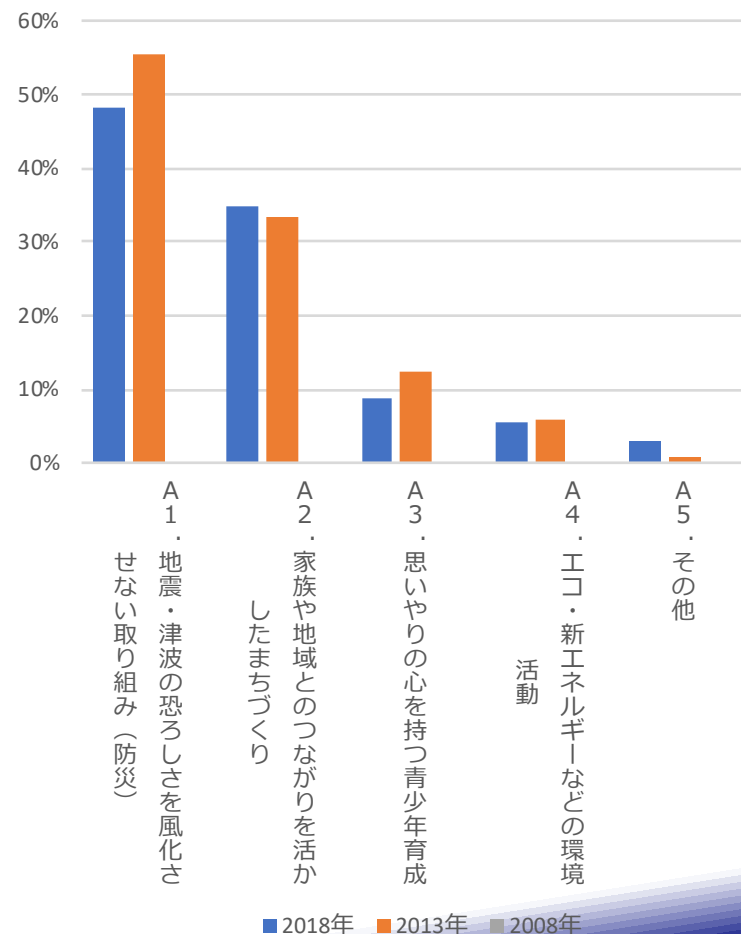
分析・考察結果

5年前と比較して「家族とのつながり」が7.7%増加しており、普段は当たり前の存在である家族が震災を1つのきっかけとして絆を深めたことが要因と思われる。また「近所(地域)とのつながり」が6.6%減少しているとはいえ未だ高い割合で回答しており、地域コミュニティや、人と人、地域と地域のつながりを重視しながら、災害に強いまちづくりをハード・ソフトの両面にわたって行うことが大切であると思われる。

震災について

Q 1 7 震災を経験して、今後のまちづくりに活かすべきことは？

性別／年代	A 1. 地震・津波の恐ろしさを風化させない取り組み(防災)	A 2. 家族や地域とのつながりを活かしたまちづくり	A 3. 思いやりの心を持つ青少年育成	A 4. エコ・新エネルギーなどの環境活動	A 5. その他	総計
男性	20.8%	16.7%	4.7%	2.9%	2.0%	47.2%
18歳以上20歳未満	0.0%	0.8%	0.0%	0.1%	0.0%	0.9%
20代	2.4%	1.6%	0.7%	0.3%	0.6%	5.6%
30代	5.9%	4.8%	1.9%	1.3%	0.5%	14.3%
40代	5.3%	4.3%	0.8%	0.4%	0.3%	11.0%
50代	2.0%	2.0%	0.3%	0.3%	0.3%	5.0%
60代	3.0%	1.8%	0.8%	0.4%	0.0%	6.0%
70代	2.2%	1.5%	0.3%	0.1%	0.3%	4.4%
80代以上	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%
女性	27.4%	17.9%	3.9%	2.6%	0.9%	52.8%
18歳以上20歳未満	1.3%	0.9%	0.3%	0.0%	0.0%	2.6%
20代	3.2%	2.1%	0.4%	0.3%	0.3%	6.3%
30代	8.1%	6.2%	0.9%	0.6%	0.3%	16.1%
40代	6.7%	3.5%	0.6%	0.9%	0.3%	12.0%
50代	2.4%	1.7%	1.2%	0.6%	0.1%	6.0%
60代	3.8%	2.4%	0.3%	0.2%	0.0%	6.7%
70代	1.6%	0.8%	0.1%	0.0%	0.0%	2.5%
80代以上	0.2%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.5%
2018年	48.2%	34.7%	8.6%	5.5%	3.0%	100.0%
2013年	55.6%	33.5%	12.3%	6.0%	0.8%	100.0%
2008年	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	



分析・考察結果

5年前と比較して「家族や地域とのつながりを活かしたまちづくり」が3.6%増加しており、地域コミュニティにおける自主防災組織等の活動の充実や災害ボランティア活動の促進など、災害に強い地域づくり活動を望んでいることが要因の1つと思われる。

また「地震・津波の恐ろしさを風化させない取り組み」が3.2%減少しているが約半数の方が選択して回答しており、大震災の試練から得た貴重な教訓を記録に残すとともに、防災教育に活用するなど、各世代がしっかりと受け継ぎ、災害の絶えないわが国の防災に役立てていくことは極めて重要だと考えていることが要因の1つと思われる。

震災についてのまとめ

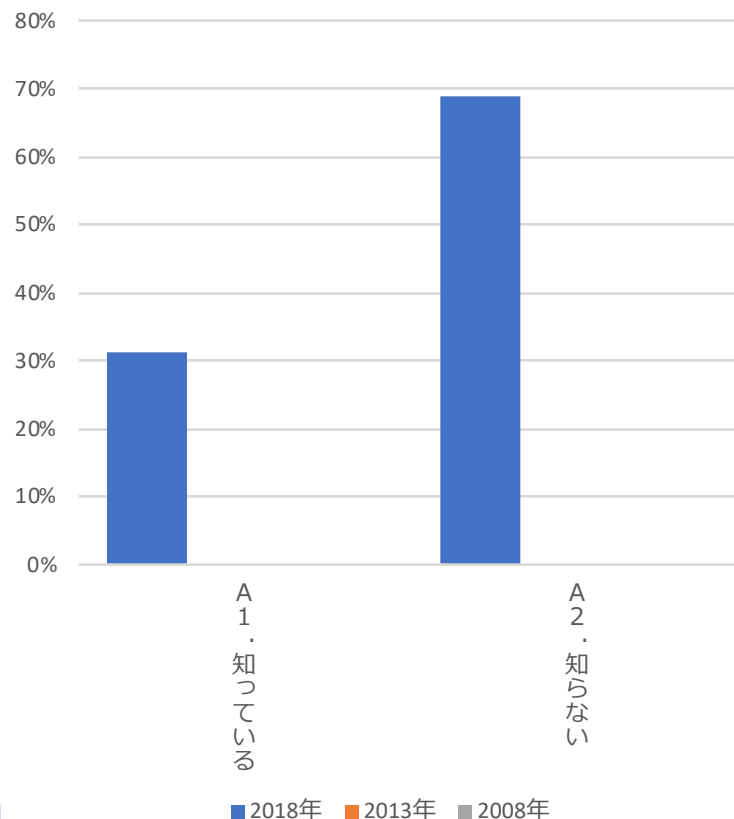
東日本大震災から7年たった今でも八戸市民は震災を決して忘れていないと思われる。近所（地域）とのつながりが大切だと回答した方は6.6%減少したといえども、その意識が希薄になったとは言えず、家族がまず第一と考えた上で、近所（地域）とのつながりへ結びつくと考えた結果が反映されたのではないかと思われる。

震災を経験したことで人や地域とのつながりを改めて感じたのではないか。今後ひとや地域とのつながりを感じられる機会を提供し、市民のまちに対する防災意識をさらに高めていく必要がある。また震災の恐ろしさを風化させず、まちづくりに活かし続けていく必要性もある。より多くの市民がつながりを感じ、活かし、この八戸のために行動することで、さらなるつながりを感じ、被災したからこそその新たなまちづくりが出来るのではないかと考えられる。

広域連携について

Q18 「広域連携中枢都市圏」や「八戸都市圏スクラム8（エイト）」をご存知ですか？

性別／年代	A1. 知っている	A2. 知らない	総計
男性	18.9%	28.5%	47.4%
18歳以上20歳未満	0.4%	0.4%	0.9%
20代	1.8%	3.8%	5.6%
30代	5.4%	8.9%	14.3%
40代	4.3%	6.9%	11.1%
50代	2.1%	2.8%	4.9%
60代	2.7%	3.2%	6.0%
70代	2.0%	2.3%	4.3%
80代以上	0.2%	0.1%	0.3%
女性	12.4%	40.2%	52.6%
18歳以上20歳未満	0.8%	1.9%	2.6%
20代	0.8%	5.6%	6.4%
30代	3.4%	12.7%	16.1%
40代	2.0%	9.9%	11.9%
50代	1.3%	4.7%	6.0%
60代	3.0%	3.7%	6.7%
70代	1.1%	1.4%	2.5%
80代以上	0.1%	0.4%	0.5%
2018年	31.3%	68.7%	100.0%
2013年	0.0%	0.0%	
2008年	0.0%	0.0%	



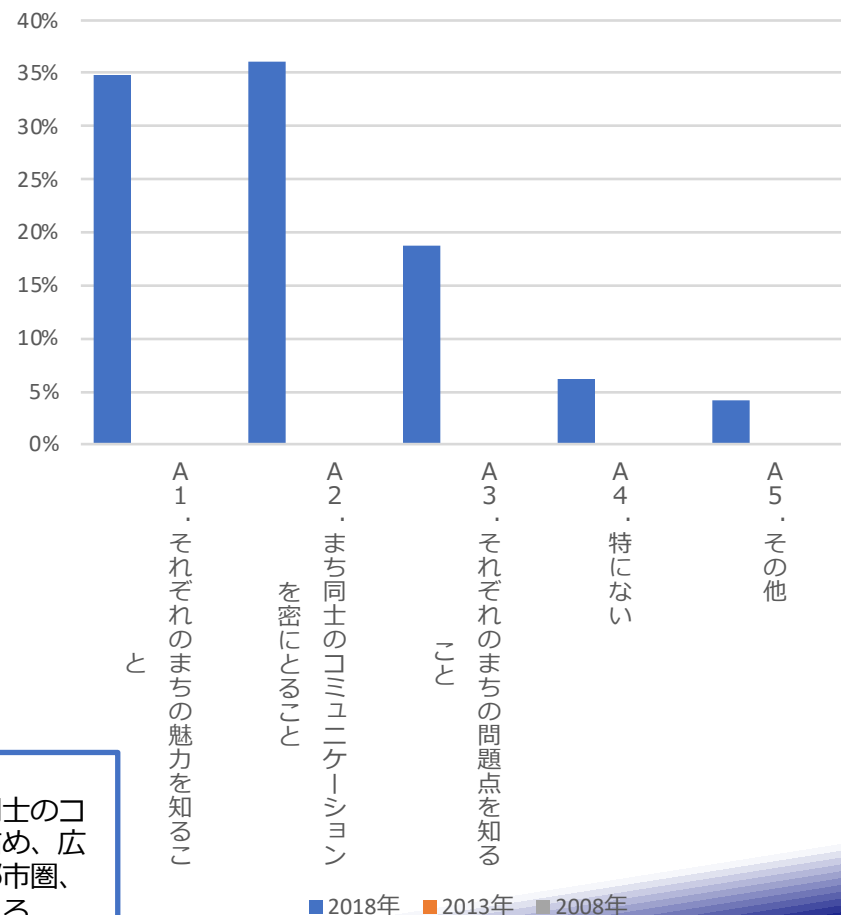
分析・考察結果

今回のアンケートではじめての質問項目ではあるが、広域連携中枢都市圏、八戸都市圏スクラムエイトについては、約70%の方が知らない事がわかった。初年度の時点で30%の方が知っているともとれるが、実情としてはまだまだ市民に認知されていない結果といえると思われる。

広域連携について

Q 1 9 広域連携を行っていくにあたって重要と考えることは何ですか？

性別／年代	A 1. それぞれのまちの魅力を 知ること	A 2. まち同士の コミュニケーションを 密にとること	A 3. それぞれの まちの問題点を 知ること	A 4. 特 にない	A 5. そ 他の	総計
男性	14.9%	17.1%	9.2%	3.5%	2.2%	47.0%
18歳以上20歳未満	0.0%	0.6%	0.2%	0.1%	0.0%	0.9%
20代	1.4%	1.6%	1.3%	0.8%	0.4%	5.5%
30代	5.6%	5.0%	2.4%	0.9%	0.3%	14.2%
40代	3.5%	4.0%	2.4%	0.6%	0.6%	11.2%
50代	1.7%	1.4%	0.9%	0.7%	0.3%	4.9%
60代	2.0%	2.7%	0.9%	0.3%	0.1%	6.0%
70代	0.8%	1.7%	1.0%	0.2%	0.4%	4.1%
80代以上	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.3%
女性	19.9%	18.9%	9.6%	2.7%	1.8%	53.0%
18歳以上20歳未満	0.9%	0.9%	0.5%	0.3%	0.0%	2.7%
20代	1.6%	2.3%	1.5%	0.5%	0.4%	6.4%
30代	6.6%	6.1%	2.1%	0.7%	0.8%	16.2%
40代	4.0%	4.5%	2.9%	0.4%	0.3%	12.1%
50代	2.5%	1.7%	1.1%	0.3%	0.2%	5.8%
60代	2.7%	2.4%	1.1%	0.4%	0.1%	6.8%
70代	1.3%	0.9%	0.3%	0.1%	0.0%	2.5%
80代以上	0.3%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.5%
2018年	34.9%	36.0%	18.8%	6.3%	4.0%	100.0%
2013年	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
2008年	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	



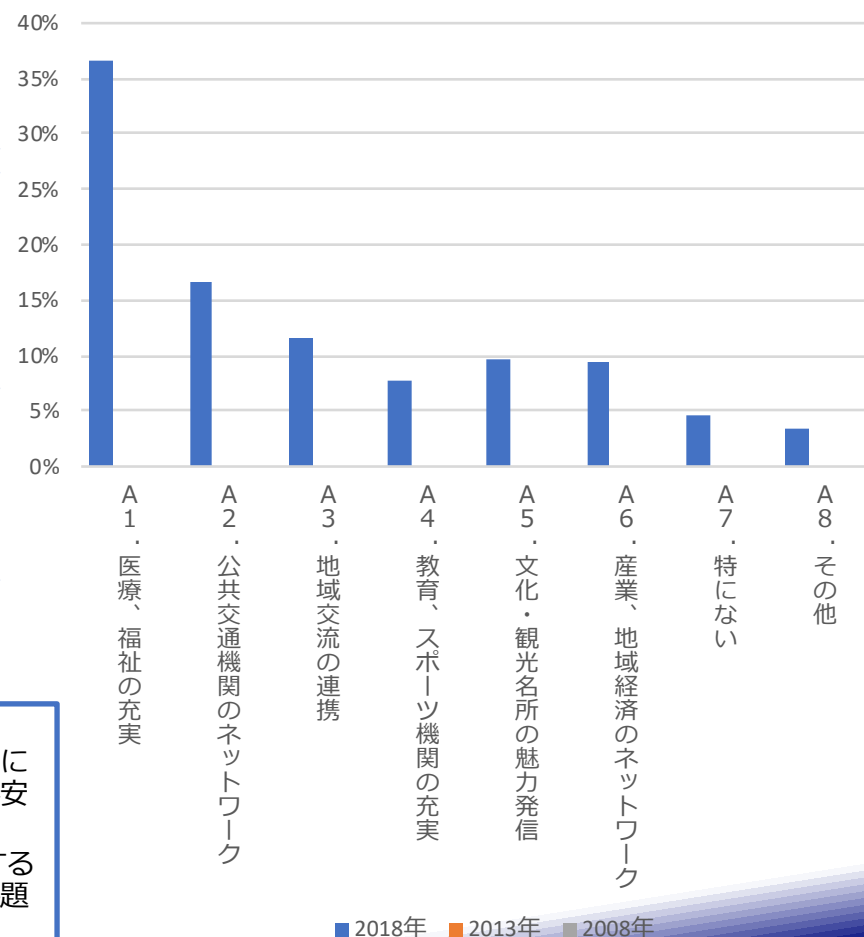
分析・考察結果

今回のアンケートで、「それぞれのまちの魅力を知ること」及び「まち同士のコミュニケーションを密にとること」がそれぞれ35%と全体の約70%を占め、広域連携をしていくにあたって重要と考えることに関しては、広域連携中枢都市圏、スクラムエイトの事を知らずとも、広域連携の重要性を認識しているとみえる。

広域連携について

Q20あなたが広域連携に求めることは何ですか？

	A 1. 医療、福祉の充実	A 2. 公共交通機関のネットワーク	A 3. 地域交流の連携	A 4. 教育、スポーツ機関の充実	A 5. 文化・観光名所の魅力発信	A 6. 産業、地域経済のネットワーク	A 7. 特にな	A 8. その他	総計
性別／年代									
男性	13.2%	7.6%	6.7%	4.4%	4.8%	6.5%	2.7%	1.4%	47.3%
18歳以上20歳未満	0.1%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.9%
20代	0.9%	1.0%	0.9%	0.5%	0.7%	0.9%	0.6%	0.1%	5.6%
30代	3.5%	2.3%	1.4%	2.0%	2.1%	1.8%	0.7%	0.3%	14.2%
40代	3.7%	1.4%	2.0%	0.9%	0.6%	1.6%	0.5%	0.3%	11.1%
50代	1.7%	0.4%	0.9%	0.2%	0.4%	0.7%	0.3%	0.3%	4.9%
60代	1.9%	0.9%	0.9%	0.6%	0.6%	0.9%	0.2%	0.0%	6.0%
70代	1.3%	0.9%	0.5%	0.3%	0.3%	0.4%	0.3%	0.4%	4.3%
80代以上	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.3%
女性	23.5%	9.0%	4.9%	3.4%	4.9%	3.0%	2.0%	2.0%	52.7%
18歳以上20歳未満	1.1%	0.5%	0.2%	0.3%	0.2%	0.0%	0.3%	0.0%	2.6%
20代	1.9%	1.3%	0.6%	0.5%	1.0%	0.3%	0.4%	0.3%	6.4%
30代	7.9%	2.2%	1.4%	1.0%	1.4%	0.6%	0.7%	0.9%	16.2%
40代	4.9%	1.8%	1.4%	1.2%	1.4%	0.8%	0.2%	0.3%	11.9%
50代	2.5%	1.6%	0.4%	0.2%	0.3%	0.4%	0.2%	0.3%	5.9%
60代	3.6%	1.0%	0.6%	0.1%	0.3%	0.9%	0.2%	0.1%	6.7%
70代	1.4%	0.5%	0.3%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	2.5%
80代以上	0.3%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
2018年	36.7%	16.6%	11.7%	7.8%	9.7%	9.4%	4.7%	3.4%	100.0%
2013年	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
2008年	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	



分析・考察結果

広域連携に求めることに関しては、「医療福祉の充実」が36.7%にのぼり、少子高齢化が進む時代背景においてこの問題が市民にとって不安であり関心があることが結果に反映されたものと思われる。

医師派遣事業やドクターカー運行事業、救急・母子周産期医療に関する医療人材育成、子育て支援の充実や高齢者福祉の充実など医療福祉の課題は多岐にわたるものと思われる。

広域連携についてのまとめ

我が国においては、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への過度の人口集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことが、喫緊の課題となっている。

このような状況の中、国では、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、この中で、「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」ことを基本目標の一つとして掲げ、定住自立圏や連携中枢都市圏の形成といった自治体間の地域連携を、一層推進していくこととしている。

八戸圏域（八戸市・三戸町・五戸町・田子町・南部町・階上町・新郷村・おいらせ町）では、平成21年度に八戸圏域定住自立圏を形成し、緊密な連携のもと、ドクターカーの運行や路線バス上限運賃化など、各種連携事業を積極的に展開することで、圏域全体における生活関連機能サービスの向上に成果を上げてきた。

このような中、当圏域では、平成27年度から、国の新たな広域連携制度である連携中枢都市圏の活用について、具体的な検討を重ね、平成29年1月1日には、八戸市が中核市に移行し、連携中枢都市圏の連携中枢都市としての要件を満たすこととなったところである。

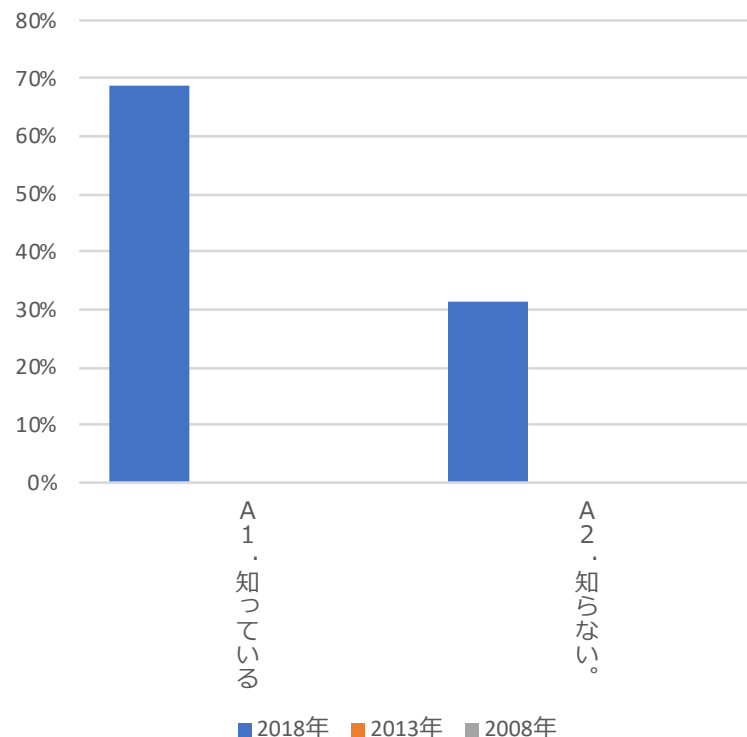
連携中枢都市圏は、「圏域全体の経済成長のけん引」、「高次の都市機能の集積・強化」、「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」を目指すものであり、八戸圏域において、連携中枢都市圏へと発展的に移行することは、連携の更なる深化と圏域の活性化につながるものと期待される。

本ビジョンは、圏域の一体的発展を目指し、圏域の目指すべき将来像と、その実現に向けた具体的な取組を示すものとして策定するものである。

八戸青年会議所について

Q 2 1 あなたは、公益社団法人八戸青年会議所（八戸 J C）をご存知ですか？

性別／年代	A 1. 知っている	A 2. 知らない。	総計
男性	34.6%	12.6%	47.2%
18歳以上20歳未満	0.6%	0.3%	0.8%
20代	3.6%	2.0%	5.6%
30代	10.9%	3.3%	14.2%
40代	7.9%	3.1%	11.0%
50代	3.9%	1.0%	4.9%
60代	5.1%	0.8%	5.9%
70代	2.5%	1.8%	4.3%
80代以上	0.1%	0.2%	0.3%
女性	34.0%	18.9%	52.8%
18歳以上20歳未満	1.1%	1.5%	2.6%
20代	3.4%	3.0%	6.4%
30代	10.5%	5.6%	16.1%
40代	8.2%	3.7%	12.0%
50代	4.1%	1.9%	5.9%
60代	5.1%	1.7%	6.8%
70代	1.4%	1.0%	2.5%
80代以上	0.1%	0.4%	0.5%
2018年	68.6%	31.4%	100.0%
2013年	0.0%	0.0%	
2008年	0.0%	0.0%	



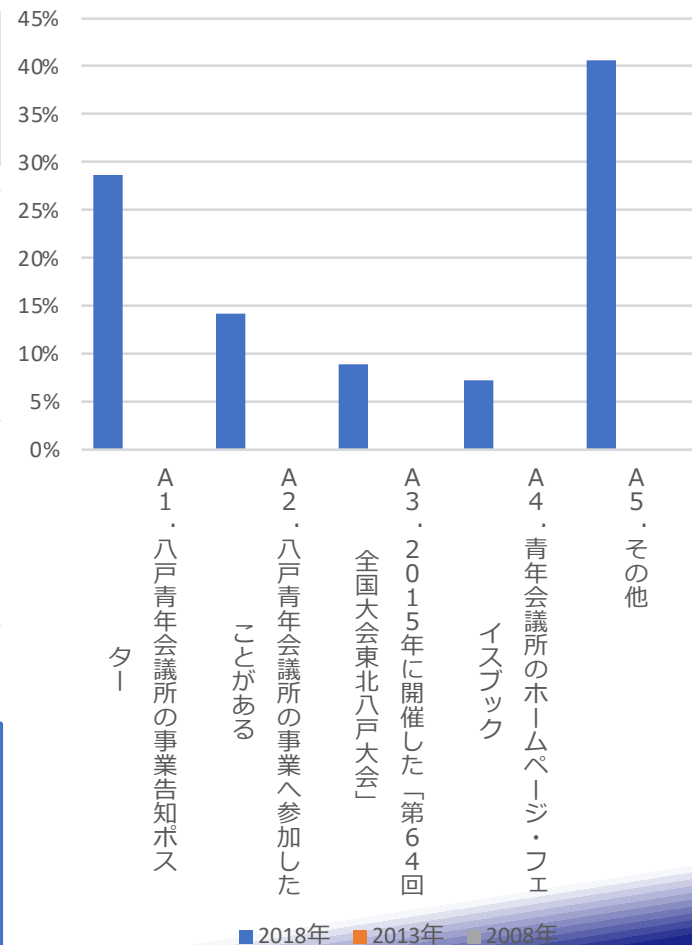
分析・考察結果

10年前と比較して「知っている」と回答された方が8.1%増加しており、新聞やポスター、チラシに加え、インターネットやSNS等のツールが普及し、八戸青年会議所の活動が市民へ広く伝わるようになり認知度が向上したためと思われる。

八戸青年会議所について

Q22 「知っている」とご回答いただいた方は、どの様に知りましたか？

	A 1. 八戸青年会議所の事業告知ポスター	A 2. 八戸青年会議所の事業へ参加したことがある	A 3. 2015年に開催した「第64回全国大会東北八戸大会」	A 4. 青年会議所のホームページ・フェイスブック	A 5. その他	総計
性別／年代						
男性	13.9%	8.3%	4.8%	3.2%	20.2%	50.5%
18歳以上20歳未満	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.2%	0.9%
20代	1.5%	0.9%	0.1%	0.5%	2.7%	5.7%
30代	3.7%	2.7%	1.6%	0.8%	6.9%	15.7%
40代	2.7%	1.8%	0.9%	0.9%	5.1%	11.4%
50代	1.8%	1.0%	0.6%	0.6%	1.8%	5.9%
60代	2.7%	1.2%	0.9%	0.3%	1.8%	6.9%
70代	1.2%	0.5%	0.6%	0.0%	1.5%	3.7%
80代以上	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%
女性	14.9%	6.0%	4.2%	3.9%	20.6%	49.5%
18歳以上20歳未満	0.6%	0.2%	0.1%	0.1%	0.5%	1.5%
20代	1.4%	0.5%	0.6%	0.6%	2.1%	5.1%
30代	3.7%	1.7%	1.4%	2.1%	6.7%	15.6%
40代	3.5%	1.5%	0.3%	0.8%	5.5%	11.7%
50代	2.0%	0.7%	0.6%	0.1%	2.5%	5.9%
60代	2.5%	1.0%	0.8%	0.2%	2.5%	7.2%
70代	1.2%	0.3%	0.3%	0.0%	0.6%	2.4%
80代以上	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%
2018年	28.8%	14.3%	9.0%	7.2%	40.8%	100.0%
2013年	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
2008年	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	



分析・考察結果

「八戸青年会議所の事業告知ポスター」は28.7%、及び「八戸青年会議所の事業へ参加したことがある」は14.3%と全体の43%を占め、事業告知のポスターやチラシなどの参加の呼びかけは依然として告知効果があると思われる。

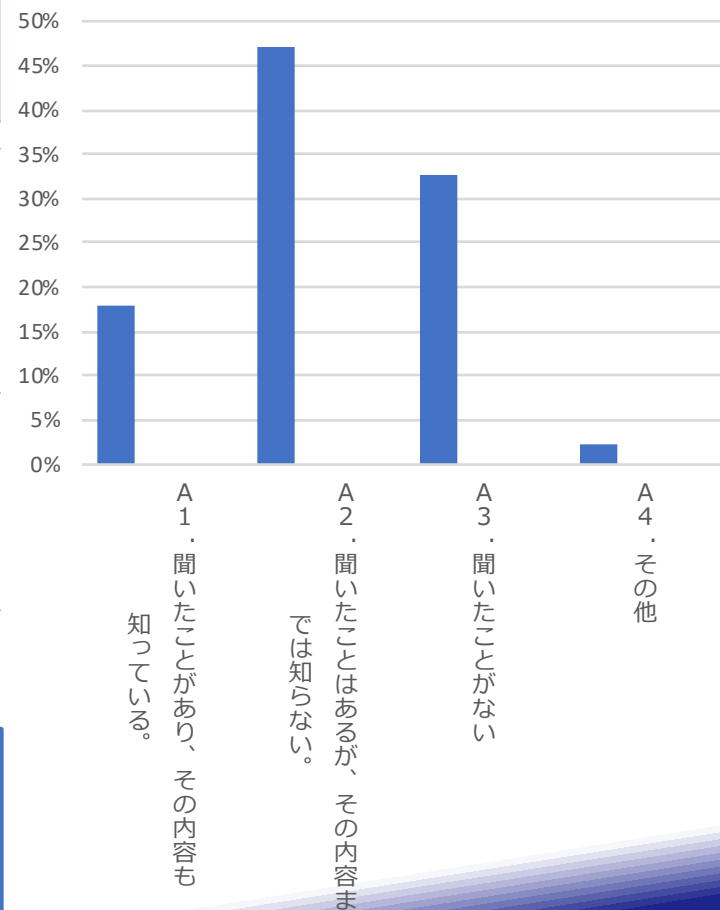
一方で、「青年会議所のホームページやフェイスブック」は9%程度に止まり、発信ツールとしてまだ市民に浸透していないものと思われる。

そして、「その他」は40.7%にのぼることからその詳細な内訳においても今後検討が必要と思われる。

八戸青年会議所について

Q23 あなたは、「ラブはちのへ」「ラブはち」という言葉を聞いたことがありますか？また、その内容についてご存知ですか？

性別／年代	A 1. 聞いたことがあり、その内容も知っている。	A 2. 聞いたことはあるが、その内容までは知らない。	A 3. 聞いたことがない	A 4. その他	総計
男性	11.7%	20.1%	14.4%	0.9%	47.2%
18歳以上20歳未満	0.2%	0.4%	0.2%	0.1%	0.9%
20代	0.9%	1.9%	2.7%	0.0%	5.6%
30代	4.5%	5.7%	4.2%	0.1%	14.4%
40代	2.4%	4.6%	3.9%	0.2%	11.1%
50代	1.2%	2.4%	1.0%	0.3%	4.9%
60代	1.5%	3.1%	1.2%	0.1%	5.9%
70代	0.9%	2.0%	1.2%	0.2%	4.3%
80代以上	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.3%
女性	6.2%	26.8%	18.3%	1.5%	52.8%
18歳以上20歳未満	0.3%	0.6%	1.6%	0.1%	2.6%
20代	0.6%	2.8%	2.7%	0.3%	6.4%
30代	2.1%	8.6%	5.1%	0.3%	16.2%
40代	0.9%	6.6%	4.3%	0.2%	11.9%
50代	0.2%	3.6%	1.9%	0.3%	5.9%
60代	1.5%	3.5%	1.6%	0.2%	6.8%
70代	0.6%	0.9%	0.8%	0.2%	2.5%
80代以上	0.1%	0.2%	0.3%	0.0%	0.5%
2018年	17.9%	47.0%	32.7%	2.4%	100.0%
2013年	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
2008年	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	



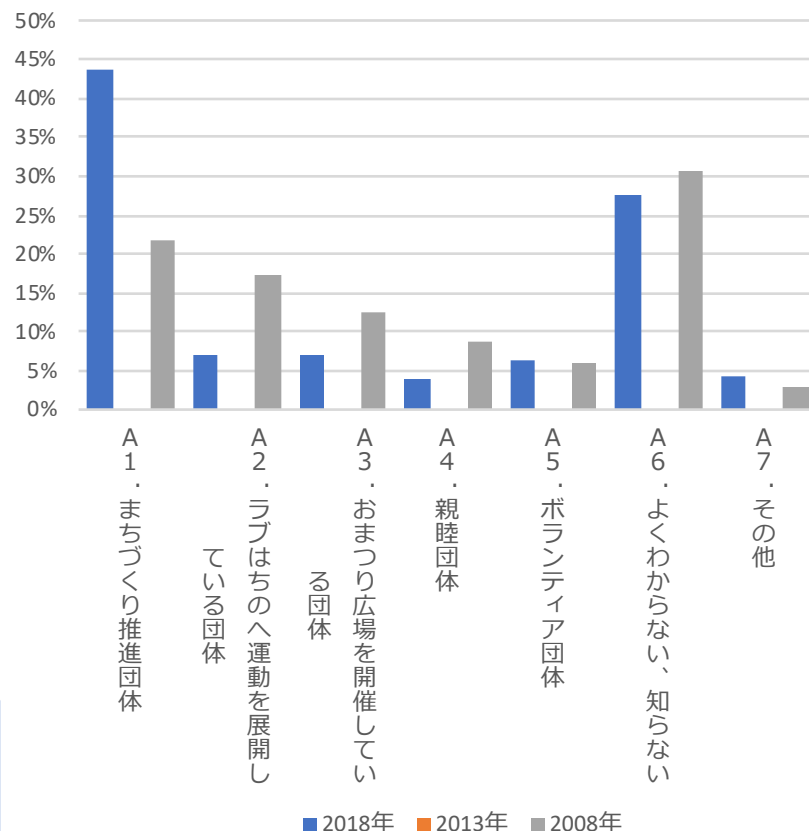
分析・考察結果

昨年の広報委員会のアンケートと比較して、「聞いたことがあり、その内容も知っている」とかいとうされた方が5.9%、「聞いたことはあるが、その内容までは知らない」と回答された方が10.9%と軒並み増加しており、ラブはちステッカーやラブはちラッピングタクシーなど昨年の趣向を凝らした広報戦略が功を奏した形として現れたものと思われる。

八戸青年会議所について

Q 2 4 あなたは、八戸青年会議所に対してどのようなイメージをお持ちですか？

	A 1. まちづくり推進団体	A 2. ラブはちのへ運動を展開している団体	A 3. おまつり広場を開催している団体	A 4. 親睦団体	A 5. ボランティア団体	A 6. よくわからない、知らない	A 7. その他	総計
性別／年代								
男性	19.2%	4.2%	3.3%	2.4%	3.5%	12.5%	2.0%	47.1%
18歳以上20歳未満	0.4%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.9%
20代	1.4%	0.3%	0.2%	0.3%	0.8%	2.4%	0.3%	5.6%
30代	6.7%	0.6%	1.3%	0.5%	0.9%	3.8%	0.4%	14.3%
40代	4.4%	0.8%	0.9%	0.9%	0.9%	2.8%	0.5%	11.1%
50代	2.1%	0.5%	0.4%	0.2%	0.4%	0.9%	0.3%	4.9%
60代	2.6%	1.1%	0.3%	0.3%	0.3%	1.3%	0.1%	5.9%
70代	1.4%	0.7%	0.3%	0.3%	0.3%	1.1%	0.4%	4.3%
80代以上	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.3%
女性	24.4%	2.7%	3.8%	1.7%	2.8%	15.1%	2.2%	52.9%
18歳以上20歳未満	0.7%	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	1.5%	0.0%	2.6%
20代	2.1%	0.2%	0.6%	0.1%	0.7%	2.3%	0.4%	6.4%
30代	7.4%	0.8%	1.1%	0.9%	0.5%	4.7%	0.9%	16.2%
40代	6.3%	0.5%	0.9%	0.3%	0.8%	3.0%	0.3%	12.0%
50代	2.7%	0.2%	0.5%	0.3%	0.4%	1.6%	0.3%	6.0%
60代	4.0%	0.3%	0.4%	0.1%	0.3%	1.4%	0.2%	6.7%
70代	1.0%	0.4%	0.1%	0.2%	0.0%	0.5%	0.3%	2.5%
80代以上	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.5%
2018年	43.7%	6.9%	7.1%	4.1%	6.3%	27.7%	4.3%	100.0%
2013年	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
2008年	21.9%	17.2%	12.5%	8.7%	6.0%	30.7%	3.0%	100.0%



分析・考察結果

10年前と比較して「まちづくり推進団体」と回答された方が21.8%増加しており、市民先導のまちづくりを目指す八戸青年会議所の運動が、事業などを通して市民に認知されつつあるのではないかとと思われる。

一方で、「ラブはちのへ運動を展開している団体」は10.3%、「おまつり広場を開催している」は5%程度軒並み減少しており、八戸青年会議所のイメージとしてまちづくりが定着しつつあるが具体的な活動内容まで把握されていないのが現状のようである。

八戸青年会議所についてのまとめ

これら4つの質問から、八戸青年会議所は市民のイメージとして10年前から21.8%増加していることから、「まちづくり推進団体」として市民に認知されている傾向にあるといえる。

ただし、「ラブはちのへ運動を展開している団体」、「おまつり広場を開催している」については、その言葉やおまつり広場の存在を知っている市民が増えてはいるが、八戸青年会議所の活動として捉えている市民が思いのほか少なく、イメージとして定着していない結果が軒並み減少したのではないかと思われる。

事業や活動に参加することでまちへの愛着が醸成され、まちづくりへの興味が生まれます。自らまちについて考えることで、まちづくりへ参加するきっかけとなり、参加した市民がまちづくりへ自発的に活動を起こし、多くの市民を巻き込み広がることこそが、私たちが掲げる「市民先導」のまちづくりです。

この考えは、自分たちのまちを知り、自分たちのまちを愛するという「知・即・愛」の精神により、歴史の中で築かれてきた「ラブはちのへ」の考えにつながります。

今後、一人でも多くの市民ができることからまちづくりに参加できるように、様々な場面で意識高揚を図ることが必要です。さらに、市民の力だけでは出来ないことや解決できない問題は、八戸青年会議所が長年培ってきた様々なつながりを活かし、行政や団体へ橋渡しをすることが重要です。「市民先導」のまちづくりとは、既存の行政や団体を頼らず、市民の力だけで行っていくことではなく、より良いまちを創っていかうとする市民と八戸青年会議所や行政、関係諸団体が共に愛する故郷のために協力し合い、まちの未来を創造することが求められています。

自由意見について

No.	回 答
1	つながりとは具体的に何なのか。このアンケートはどのように活用されるのか。アンケートよりも活動報告が必要だと思う。
2	少子高齢化、人口流出問題は最早止められない。これらの問題と、如何に向き合っていくのかを考えないと、八戸だけではなく地方の衰退は止められない。
3	お年寄りに目線を向けるのはいいが、今後の八戸市を支える子供への対応が少ないと感じる。10代、20代の子が楽しめる環境、生まれ育ったこの町で暮らしたいと思われるような環境整備(遊び場作り)が必要だと思う。現に中心街には遊ぶところがなく、学校帰りに寄る学生の数も減ってきている。 早めに対策を考えないと労働人口の流出は更に加速して行くと考える。
4	大学から町までが遠いです。
5	地元に残りたい気持ちはあっても仕事面や結婚、育児など田舎に住むことが不安。

自由意見について

No.	回 答
6	八戸観光コンベンション協会でも、旅行者と地域住民にアンケートをしています。今後一緒にできることは一緒にやって、より効率的且つ効果的な調査をやりませんか？
7	スポーツ施設、商業施設が建設中だが、そこがどう市民の生活に溶け込んでいくのか課題に感じる。例えば、スケート施設の他のイベント(企業説明会、コンサート等)への活用を通して、日常的に活用されるかどうか。
8	活動内容を知らせる方法を検討してほしい。例として、実は〇〇のような事をやっていますよ。とか、一般家庭の人まで知らせる方法はないのか、例として、町内の回覧をするとか。
9	イベントの情報発信について参加しやすいアピールをしてほしい

自由意見について

No.	回 答
10	八戸はとても魅力的だと思う。後は、魅力をいかにつたえていくかの発信力だけ。
11	町中に老人が憩える場所があればいいかな？歩道にベンチとか置いていただけたら助かると思う。 老人のみではなく子供連れの家族も楽しめる市街地だったらいい。 郊外の大がかりな公園もいいけど町中に小さな公園があったらいいと思う。 まつりんぐ広場がもったいない気がする。
12	企業(ものづくり系)が新規に立地するのに適切な場所(例えば工業団地)が不足している。 美保野地区の開発を進めてほしい(工業団地の設置)
13	中心部の駐車場を無料にして下さい。
14	子供たちが将来「八戸に住み続けたい」「八戸で仕事をしたい」と考えられる様に教育を充実して欲しい。八戸で働く人の増加が公務員の給与の基になることすし・・・。

自由意見について

No.	回 答
15	空き店舗の活用
16	老後も安心して住める町になれば良いと思います
17	小さな子供たちが集う場所(大型公園、テーマパークなど)が少なく感じます。 街中に無料駐車場(大型、少し離れても可)が欲しいです。
18	若者の人口流出を減らす魅力ある仕事就職の確立を目指してほしい。
19	子供、高齢者はもちろんですが、若者(これから八戸を作っていく人達)にも優しくわくわくするようなまちを作ってほしいです。ありきたりなイベントではなく、八戸って最高！！ここに一生住みたい！！と思えるような楽しく生活できる地元を盛り上げるイベントがあればいいと思います。たとえば、『メイドイン八戸』にこだわった大きなイベント(食品や物販などもある)フェスのようなお祭りや八戸市民を巻き込んだ新しいイベントを作ってみては？と思います。

自由意見について

No.	回 答
20	八戸は広域の中心目づ、牽引役であることをわすれないでほしい。
21	<p>地元の特産品などで呼ぼうとするのも良いと思いますが何かのついでに来た人たちがまたリピートしたいと思えるような町にしていければと思います。</p> <p>例えば来年秋完成予定の長根屋外スケート場でシーズン以外にはどんどん有名なアーティストのライブやその他のいろいろなジャンルのイベント等をしてもらいそれを目的に来た人が八戸自体も気に入ってまた来たいと思ってもらえるようなおもてなしや企画が出来たら良いのではと思っています(^ ^)まずは何でも良いので来てもらうことが大事かなと思います。</p> <p>八戸がどんどん活性化するように頑張っていきましょう！</p>
22	まちづくりよろしくお願いします。
23	おまつりでテナントを増やした方がいいと思う。
24	ヴァンラーレ八戸をもっと応援した方がいい。

自由意見について

No.	回 答
25	子供達の教育現場の充実。
26	魅力ある商店がいろいろ。無料駐車場があればいい。 いろんなイベントを沢山してほしい。
27	もっと市民がイベントを立ち上げるサポートをすればいいと思います。 ○月○日、市民広場でイベントをやりませんかなど、それについての事業計画コンテスト、優勝者→イベント実行のような、20代限定など。
28	学童保育を増やしてほしい。
29	おまつり広場楽しみにしています。
30	自然を生かし景観の美しい街にして欲しい。文化活動もさらに充実して欲しい。（八戸の魅力だと思うので、音楽など）
31	人との繋がりを大切にしたいです。

自由意見について

No.	回 答
32	地元だけではなく、他地域へ(海外含む)発信、告知、アピール不足と感じる。東北だけに留まらず関東より南にも知られるとよい。
33	LOVEはちのへを軸に大いに頑張ってください。
34	子育てしやすいまちにしてほしい。保育料を安くしてほしい。 子供を連れて遊びに行く場所や、カップルがデートに行く場所、観光地があまりないと思うので増やしてほしい。 市内に無印良品、サブウェイ、アカチャンホンポがほしい。
35	もっと強いPRが欲しい。
36	近隣の市町村は15歳まで医療費が無料であったり、保育料の無料であったり子育て世代に対しても産み育てやすい支援があるが、八戸は少ないように感じる。もう少し高齢者だけでなく子育て世代に支援が欲しい。
37	バスをもっと本数を増やして欲しい。はっち、飲食ありにして欲しい。

自由意見について

No.	回 答
38	わけのわからない同じような建物施設ばかりを作るのではなく、どうすれば人を呼び込むことができるのかまじめに考えたほうが良いと思う。このままだと八戸ってまちは楽しくない。
39	関東から転勤で八戸に越してきました。子供の医療費助成が全員ではないこと、道がガタガタで歩きにくいところなど、八戸は住みにくい所だと思います。 特に子供の医療費はほとんどの地域が無料であるのに八戸はかなり遅れていると思います。
40	もっと観光する人たちがお買い物できるところ作ったり、名所をもっとA Pしたり若い子が八戸市に残れる街にするためにショッピングセンターを少しでも充実できたら良いなと思います！！
41	一般市民の目の高さに立って物を見て欲しい八戸発展のためには皆様が必要な活動をしていると思います。これからもガンバッテください。

自由意見について

No.	回 答
42	青少年を育成するよりはまずは大人として育成すべき。親になったら大人と言う認識が日本人は持っている人が多いためこの教育が不十分。子に見せる姿は親ではなく大人の姿を見せて教育成長につなげていくべき。そのためのセミナーや動きが必要。でないと思いやりも何も得ない。
43	地域の魅力を発信、発展させるためにJCIの存在は年々大きくなってきてると感じます。新世代が創る八戸を楽しみにしています。頑張ってください。
44	八戸市全体を八戸市として考えることも必要だと思います。
45	一般人には活動状況が見えにくいもっと浸透することが必要。仲良い仲間の活動と見られもったいない。
46	若者の集まるまちづくり。 人口減少に取り組む。 箱物行政は将来赤字負担になる。

自由意見について

No.	回 答
47	母子家庭でも子どもとの時間がしっかりととれるような職場環境の充実など休みや勤務時間をきちんとして欲しい。
48	まちづくりって何？ 知りたい、何をしていること？
49	全国展開しているような商業施設(イオンモール等)があると良いと思う。県外から転勤等できた方たちは、知っている商業施設があれば少しでも住みやすいと思ってもらえると思う。 子供たちが無料で遊べる公共施設が無さすぎる。他の子育て支援が盛んな地域をもっと学んでもらって良いところを取り入れてもらいたい。
50	様々な活動に感謝致します。
51	八戸の市街地をもう少し活性化させてほしいです。
52	家族で遊べる場所が少ないと思う。もっとアスレチックとか充実した公園が欲しい。

自由意見について

No.	回 答
53	室内で子供が遊ぶ場を増やしてほしい。
54	もっと子供の遊べるゆうぐがある公園や、雨でも遊べる場所を作してほしい。
55	すでにすてきなまちだと思いますよ。
56	安心安全医療の充実のための広く意見を聞くべきでは？
57	八戸の良いところは、たくさんあると思うが、それがうまく発信できていないと思う。もっと情報発信をうまくできたら良いと思う。
58	おまつり広場については知っていたが、名称は知らなかった。
59	町内活動やボランティア活動は大変だというイメージが強い。特定の人にだけに負担がかかるのではなく、元気な高齢者が少しでも関わることがあり、それが地域のためになるような仕組みがあればいいと思います。

自由意見について

No.	回 答
60	人口流出を止める方法は分からないが子供たちに八戸に住み続けて欲しい。又、県外に出ても帰れる場所であってほしい。
61	もう少し中心街を発展させてほしい。
62	八戸市は子育てがしにくい。もっと子育てをしやすい環境にして欲しい（手当や助成など）。他の地域の活動など、もっと参考にすべき。
63	今のままでよい。
64	南部山スケート場の穴を埋めるリンクの確保。スケートリンクが減るのはよろしくない。
65	メイン通りだけでなく、狭いところにも目を配って道路整備をして欲しい。
66	老人が増え若者が少なくなっているのでそれに合わせた政策が必要。都会から比べたら安い物価。誇るべき生活文化。

自由意見について

No.	回 答
67	今後の人口減少社会を見込んで子育て支援や福祉の充実にもっと力を注ぐ必要があると思う。
68	子供を三人以上産み育てていくのにはなかなかむかない土地だと思う。人口が密集している所には保育園や病院が少なく、いちいち車に子供を乗せて出かける手間がかかるため、そういう地域に不足している施設などをもっと誘致するメリットが必要だと思う。
69	八戸空港を設置して北東北のファーストエアポート化 二戸～八戸間の国道340を3車線化してR4バイパス化
70	震災を通して、地域とのつながりやコミュニティの充実の大切さは実感したが、具体的にどんな取り組みをすればいいのか？分からない。 町内活動等は組織が古く正直面倒だ。でも地域とのつながりは持ちたい。出来ることはお手伝いしたい気持ちもある。
71	インフラ整備、はちのへの魅力を全国へもっと発信した方がよい。

自由意見について

No.	回 答
72	<p>八戸市の観光名所をもっとたくさんPRしてほしい。 有名なタレントさんに親善大使になってもらいたい。 医療が遅れているので、八戸でも安心して手術ができるように医大があつたらいい。 保育料、小児治療費は普通の家庭でも無料にしてほしい。そしたらもっと学びや体験にお金をかけれて豊かな教育ができる。</p>
73	<p>若い人達の活動が広がってイベントボランティアで八戸は活性化して来ているとは思いますが。小さな場所はたくさんあるけど少し広い発表の場が欲しいと思います。</p>
74	<p>若い方々が八戸のために活動されていることに感謝です。</p>
75	<p>JCがこのような取り組みをしていることは喜ばしいことです。いろいろな意味でがんばってほしい。</p>
76	<p>もっと広報活動をして子ども老人にも知ってもらいたい。</p>

自由意見について

No.	回 答
77	年寄りがもう少し歩き易い街にしてほしい。
78	高校、大学生年代の遊び場をつくって欲しいです。
79	高齢者の方々が安心して暮らせる街をめざして！！
80	八戸に限らず格差社会が固定化しつつあることを重くとらえるべきだ と思う。 行政、企業、地域が連携し、様々な環境下頑張っている人々を支援して いく「人と人」の絆が感じられる社会が望ましい。
81	若い人が魅力を持てるまちにしほしい。
82	八戸市の道路事情は他町村に比べ劣っている。道路インフラの充実を 望みたい。
83	海をきれいにしましょう！

自由意見について

No.	回 答
84	あまり建物にお金をかけず福祉に力を入れてほしい。
85	他都市と比べて当市の広報（広告）が少ない。 もっと市、コンベンション協会での広報活動が必要である。
86	空き店舗の活用
87	中心部の駐車場を無料にしてください。
88	少子高齢化、人口減少対策を重点的にやらないと先行きが暗い。希望が持てない。
89	通える大学が少ないので、奨学金等を充実させてほしい。
90	行事が多いのが八戸の魅力だが、マンネリ化しているので、内容を見直してほしい。
91	子育て、医療制度に力を入れて移住しやすい街になってほしいです。

自由意見について

No.	回 答
92	SNSでも、もっと若い人たちへ上手に発信していけば良いと思う。
93	プレイピア白浜の土地を有効活用して、県外からの人を呼べるものを作ったらすごくいいと思います。
94	子供の遊べる施設がもっとほしい。 日曜もやっている子供用の病院増やして欲しい。
95	自然産業は豊かなので、他地域との交流をもっと活発にすると良いと思います。
96	駐車場の料金がたかい。
97	三社大祭らしさをおまつり広場に増やすべき。 三社大祭の笛のレベル低下が問題。
98	なにかひとつでもブームになるものがあればと思います。

自由意見について

No.	回 答
99	中心街をにぎやかにしてほしい。 中学生まで医療費を無料にしてほしい。
100	医療の充実した市にしてほしい。短命県返上。
101	応援を学問にしようとしています。 「応援学ジュニア連絡協議会」で御検索いただけたら幸いです。
102	やってることが全体的にきな臭いのもっといきいきした事をやるべき。 せっかく「イカ」という有名なものがあるので、任天堂のプラトゥーンとコラボしてみる、とか。 もっと大きく県外から人が来たくなるようなイベントをやるべき。 商業施設もつまらない、もっと外に出て勉強すべき！！
103	市でやっている事が市民にはあまり伝わってこない様です。もう少し市民の目線になり、運営してもらいたいです。

自由意見について

No.	回 答
104	都市間競争に負けない整備が必要、その為には商業施設と整備の充実が必要。
105	建物ばかりたてないで少子化対策してほしい。子供がすごいスピードで減少している現実を知らなすぎる。
106	今後の活動に期待してます。若者パワーで頑張ってください。
107	全国大会後、上下関係が確立され、役員とメンバーの共同作業から、メンバーへの依頼作業が増えるような感じがします。役員を受けるにあたっての勉強が少し必要かも。皆様の頑張りを陰ながら応援させていただきます。
108	八戸は、様々な魅力があるにもかかわらず、アピール全国発信があまり上手くないような気がする。又、もっと郊外地域の発展にも力を入れて欲しい。

自由意見について

No.	回 答
109	八戸のまちづくり等若い力で頑張ってください。
110	箱物（屋内スケート場、ハッチ）などどうしても良い建物が多く造られているが、未来に役に立つとはとても思えない。
111	いきいきと暮らせる街にして下さい。
112	大きなイオンが来てほしい。
113	若い人が楽しめるまちづくりをして欲しい。 例えば東京で流行っているものを取り入れているお店を作ったりして欲しい。もっとたくさんの若い人が集まれる場所が欲しい。
114	子どもの部活の地域的なサポートを市がもっとバックアップしてほしい。
115	少子化問題に対して取り組んでほしい。

自由意見について

No.	回 答
116	野球のファンなのでスケートばかりではなく他のことにも力をいれて欲しい。 屋内スケート場もなにも相談がなかった。 上にたつ人たちが平等に話をして欲しい。
117	若い人が活躍できる場づくり。
118	気軽に車で来れるイベントがたくさんあるとうれしい。
119	箱物行政の中途半端なまちづくりで経済発展は望めません。 若い人達がか望む商業施設や道路整備を。現状はズレがあると感じる。 とにかく「歩きにくい街」と感じる。他県をもっと経験すべき。
120	休日に過ごす娯楽施設が少なく八戸市外（盛岡や仙台）まで行くことがあります。もう少し休日を楽しく過ごせるような施設があると嬉しいです。
121	若者が魅力を感じる商業施設の充実。

自由意見について

No.	回 答
122	子供が遊具で遊べる屋内施設を増やしてほしい。
123	八戸市外から移住してきた人は三社大祭のような参加型のお祭りに参加のきっかけが無いように感じる。参加方法が周知されればお祭りに参加する人が増えてまちづくりの活性化に繋がるのではないかと考えます。
124	人口は減少していくと思うが、これからも魅力あるまちづくりを進めてほしい。
125	高齢者が歩きやすい様に歩道を整備してほしいです。
126	人口減少が進んで大変不安に思います。少子高齢化に向かって行く私自身その一人としてどうにかならないかと思案しています。
127	よいまちづくりができるように私も尽くしたいと思います。一緒にがんばりたいです！
128	繁華街の歩行者用の道路が、雪が降ると滑るので危険！高齢者や雪道に慣れていない観光客の方には優しくない通路なので見直して欲しい。

自由意見について

No.	回 答
129	こども達が安全安心であそべる町になってほしい。 こども達がたくさん文化にふれやすい企画があればいいです。
130	これからもイベントを続けて八戸が楽しい町に出来たらいいと思います。
131	市役所職員の質の向上が必要！
132	道路整備。
133	街中にもっと人が集まるようなイベント取組。
134	子育ての充実 ゴミ袋の無償化
135	若い人たちがのびのびと暮らせるまち、老人が生きがいを持てるまち。
136	活気のある町づくりに取り組んでもらいたい。

自由意見について

No.	回 答
137	これからも頑張ってもらいたいです。
138	市職員も他の会社に行って色々な仕事を体験した方が良いと思う。
139	地域、学官民の連携、連携中枢都市圏の周知。
140	医師が足りない。
141	いろいろな活動をしているのですね。どんな人が参加しているのか、興味があります。
142	子どもが集まり体を動かして交流できるところが少ない。 もっと考えて建築物を計画して欲しい。 市民税を有効的に作って下さい。
143	住民が本当に必要と感じる施設整備。 住民、利用者の意向が本当に反映されているか。

自由意見について

No.	回 答
144	少子高齢化の内益々世代交代が進み若者の力が必要。期待しています。
145	様々なイベントを企画して欲しい。
146	らぶはちのへ広がりましょう。今年之三社大祭楽しみにしています。
147	これからも魅力ある八戸のまちづくりの主導よろしくお願いいたします。
148	祭りなどを増やして人々のコミュニケーションを深めるのがいいと思います。
149	子どもと遊ぶ場所がほしい。
150	魚市場があちこちに広げないで一つの場所に集めてもらいたい。ヨットハーバーが市場に挟まれてあるので、観光面からかんがえても、蕪島や種差方面に作るべきだと思う。お祭り広場も子供の国公園の近くにあるといいと思う。

自由意見について

No.	回 答
151	市民一人ひとりへ活動が理解周知されるよう、私も伝えていきたいです。
152	子供が遊びに行ける場所を作ってほしい。 (大きめのショッピングモール)
153	活動を継続することはとても大変だと思いますが、まちのため、八戸のため、未来のためにこれからも頑張ってください。応援しています！
154	青少年が楽しく八戸を知るイベントがあってもいいと思います。
155	お祭り系のイベントがふえるといいな。
156	いつもご苦労様です。これからも頑張ってください。
157	室内でも子供が体を動かして遊べる大きな施設が欲しい。 幼児のはあっても、小学生くらいになると制限されるところが多く、兄弟連れになると遊ばせにくい。

自由意見について

No.	回 答
158	PR下手。 主張が弱い。
159	Q18~Q24問を知らない方は多いと思うので、発信は積極的にやったほうがいいのかと思う。高齢者のみでなく子ども福祉の充実。
160	漁業、林業への仕事を増やす、ひとをこのまちで働ける環境を作ることが大事！！
161	税金、医療費、保育料等が高い。子供をたくさん産む気にならない。
162	若い子育て世代が住みやすい地域にして欲しい。
163	八戸市の市街地が拡大する中中心街活性化に固執している印象を受ける。拡大する市街地ありきのまちづくりへの展開を模索するべきでは。
164	八戸に帰ってこようにも、高度情報専門職の求人がない。若い人に力ネがなければ、子供もできないし、発展しないし、人材はどんどん流出する。

自由意見について

No.	回 答
165	教育子供医療保障など、これからの子供たちに必要な環境をもっと充実させてほしい。図書館などいろいろな教育施設はあるが、それを十分に利用活用できていないような気がします。(私は去年転勤で八戸にきました)地域で町内会と言ってラジオでもよく聞くが、いったい町内会の役割とはなんだろうか？と疑問です。お年寄り、子供たちが楽しく過ごせるまちづくりを頑張ってもらいたいです。八戸はすてきな町で自然も豊かなのですが、生活や教育環境では少し足りないように思います。
166	中心街中心の発展については検討が必要だと思う。
167	八戸の為に頑張ってくださっている皆様、ありがとうございます。
168	八戸のために頑張ってください
169	冬期間子供達が遊ぶ為の室内施設を増やしてほしい(ゲーム機など置いていない運動して遊べる施設)。